

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第 1 項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	2025年 6 月27日
【事業年度】	第21期(自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
【会社名】	株式会社ベガコーポレーション
【英訳名】	Vega corporation Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 浮城 智和
【本店の所在の場所】	福岡県福岡市博多区祇園町 7 番20号 博多祇園センタープレイス 4 階
【電話番号】	092-281-3501 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 河端 一宏
【最寄りの連絡場所】	福岡県福岡市博多区祇園町 7 番20号 博多祇園センタープレイス 4 階
【電話番号】	092-281-3501 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 河端 一宏
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
決算年月	2021年 3 月	2022年 3 月	2023年 3 月	2024年 3 月	2025年 3 月
売上高 (千円)	19,313,277	16,832,715	16,973,424	16,063,441	15,935,215
経常利益 (千円)	1,851,700	621,242	364,634	790,253	938,088
当期純利益 (千円)	1,159,052	382,623	120,443	394,358	591,669
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	1,027,735	1,027,894	1,030,551	1,037,128	1,043,559
発行済株式総数 (株)	10,633,600	10,634,200	10,644,200	10,669,000	10,692,600
純資産額 (千円)	5,138,661	5,269,589	5,304,393	5,566,629	5,958,842
総資産額 (千円)	8,223,657	8,020,931	7,151,450	7,209,731	8,073,545
1株当たり純資産額 (円)	486.30	501.98	505.30	538.56	579.51
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	10.00 (-)	10.00 (-)	10.00 (-)	10.00 (-)	11.00 (-)
1株当たり当期純利益 (円)	110.99	36.43	11.49	37.82	57.23
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	109.51	36.22	11.48	37.79	57.16
自己資本比率 (%)	62.5	65.7	74.2	77.2	73.8
自己資本利益率 (%)	26.2	7.4	2.3	7.3	10.3
株価収益率 (倍)	15.2	18.1	52.0	23.1	14.1
配当性向 (%)	9.0	27.4	87.0	26.4	19.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,369,748	1,915,963	2,043,234	264,004	715,573
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	300,893	229,327	179,004	189,615	466,607
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	269,249	258,036	1,099,464	234,860	165,852
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	3,121,157	1,234,920	2,000,052	1,839,582	1,922,697
従業員数 〔ほか、平均臨時雇用 人員〕 (名)	239 〔20〕	245 〔24〕	230 〔12〕	221 〔14〕	244 〔34〕
株主総利回り (比較指標：配当込み TOPIX) (%)	396.7 (142.1)	158.3 (145.0)	146.4 (153.4)	212.6 (216.8)	200.5 (213.4)
最高株価 (円)	4,265	2,058	992	1,312	1,000
最低株価 (円)	398	582	454	460	578

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、〔 〕書きは外書きで、臨時雇用者数（パート・アルバイト）の年間平均雇用人員（1日8時間で換算）を記載しております。
2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社を有していないため記載しておりません。
3. 1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上、「株式給付信託（J-ESOP）」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が保有する当社株式を、期末の普通株式の数及び期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
4. 最高・最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所マザーズ、2022年4月4日以降は東京証券取引所グロース市場における株価を記載しております。
5. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第18期の期首から適用しており、第18期以降に係る主要な経営指標等の推移については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

当社は、2004年7月、当社代表取締役社長浮城智和が、福岡県北九州市若松区において家具・インテリア等のインターネット通信販売を目的とする会社として、現在の株式会社ベガコーポレーションの前身である「有限会社ベガコーポレーション」を創業いたしました。

設立以後の主な変遷は、次のとおりであります。

年月	概要
2004年7月	福岡県北九州市若松区に有限会社ベガコーポレーション（資本金3百万円）を設立。
2004年10月	LOWYA Yahoo!ショッピング店をオープン。
2004年12月	LOWYA 楽天市場店をオープン。
2006年10月	LOWYA 自社サイト旗艦店をオープン。
2007年6月	株式会社ベガコーポレーションに商号変更。
2007年9月	海外家具メーカーから商品の大量仕入れ、コンテナ直輸入販売を開始。
2010年11月	本社を福岡市博多区祇園町に移転（現在の本社）。シンガポールに、子会社NUBEE PTE.,LTD.設立。
2012年1月	東京都港区六本木に子会社 株式会社Nubee Tokyoを設立。
2013年10月	子会社事業の再編を行い、NUBEE PTE.,LTD.は、全事業を株式会社Nubee Tokyoへ譲渡のうえ解散。
2014年4月	LOWYA Amazon店をオープン。
2015年7月	監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行。
2015年12月	日本の商品を世界へお届けする越境ECプラットフォーム（DOKODEMO）を本格稼働。
2016年1月	当社子会社ゲームアプリ「神界のヴァルキリー」を譲渡。 当社子会社の株式会社Nubee Tokyoを解散。（同年6月に清算結了。）
2016年3月	東京都渋谷区恵比寿に東京支社及びショールームを開設。
2016年6月	東京証券取引所マザーズ（現 東京証券取引所グロース市場）に株式を上場。
2018年9月	東京都渋谷区恵比寿のショールームを閉鎖。
2018年10月	家具・インテリア・雑貨に特化した国内家具プラットフォーム（Laig）を本格稼働。
2018年11月	東京支社を東京都港区北青山に移転。
2019年11月	家具・インテリア・雑貨に特化した国内家具プラットフォーム（Laig）をサービス終了。
2022年4月	東京証券取引所の市場区分見直しに伴い、グロース市場へ移行。
2022年9月	LOWYAにおける取扱商品について卸売販売を開始。
2023年4月	創業以来初となる直営店を福岡県福岡市西区に開業。
2023年12月	直営店2号店を大阪府大阪市浪速区に開業。
2024年2月	直営店3号店を愛知県名古屋市港区に開業。
2024年8月	直営店4号店を神奈川県横浜市に開業。
2024年9月	直営店5号店を東京都世田谷区に開業。
2024年10月	直営店6号店を広島県安芸郡に開業。
2024年11月	直営店7号店を大阪府茨木市に開業。
2024年11月	直営店8号店を静岡県静岡市に開業。
2025年2月	東京支社を東京都港区芝公園に移転。

（注）2025年4月、直営店9号店を愛知県安城市に開業いたしました。

3 【事業の内容】

当社は、家具・インテリア等のインターネット通信販売事業、卸売販売及び実店舗を運営しております。また、越境市場をターゲットとした越境ECプラットフォーム（以下、Eコマース事業）を運営しております。当社の主な事業の内容、当該事業における位置付け及び事業系統図は、以下のとおりであります。

なお、当社は、Eコマース事業の単一セグメントであります。

Eコマース事業

事業の内容

自社運営サイトの店舗及び楽天市場、Amazon及びYahoo!ショッピングの大手インターネットモール内の店舗を通じた家具・インテリア等のインターネット通信販売事業、卸売販売及び実店舗を営んでおります。また、越境市場をターゲットとした越境ECプラットフォーム（DOKODEMO）を営んでおります。

（ア）販売チャネル

- ・オンライン：自社運営サイト（旗艦店）、楽天市場、Amazon、Yahoo!ショッピング
- ・オフライン：卸売販売、実店舗

（イ）店舗ブランド名

- ・LOWYA：高品質なものを低価格で提供することをコンセプトとした総合家具通販サイトです。
- ・スミシア：女性やファミリー層をターゲットに、多様化した生活スタイルに合う商品を提供しております。
- ・ララストイル：ランドセルや子供机等を中心としたシンプルで機能的な商品を提供しております。
- ・パロッカ：高級感のある家具を提供しております。

（ウ）取扱商品の概要

以下のような家具・インテリア等の商品を取り扱っております。

- ・ソファ ・ベッド ・チェア ・デスク ・テレビ台
- ・収納家具 ・ダイニング用品 ・日用家電

事業の特徴

（ア）商品企画小売型のビジネスモデル

当社は、商品企画から小売までの一貫通貫体制により、効率的に商品開発・生産管理を行うことで、顧客ニーズを適時に反映した商品の提供を心がけております。

また、当社プロダクトデザイナーによる自社オリジナル商品の企画・開発及びお客様のレビュー等からのご意見を参考とした商品改良にも積極的に取り組み、常に多様なテイストとトレンドを意識したデザイン性を表現し、顧客満足度の高い商品開発に努めております。

商品は主に中国・東南アジア及び欧州の工場に製造を依頼し、直接貿易を行うことで商品仕入原価を抑え、よりリーズナブルな価格実現に努めております。

（イ）インターネット販売のノウハウ

当社は、自社運営サイトの店舗及び楽天市場、Amazon及びYahoo!ショッピングの大手インターネットモール内に複数の店舗を出店し、家具・インテリア等の販売を行っております。

全店舗サイトへのアクセス人数（重複ユーザー数含む）は、2023年3月期は71百万人、2024年3月期は66百万人、2025年3月期は57百万人と推移しております。

当社では、各店舗別に訴求する顧客層に対し、商品ページの表示や商品機能の詳細説明に、目を引くキャッチコピーや、画像、イメージ図を使用して、より分かりやすい表示を心がけております。加えて、丁寧な顧客対応や商品そのものの魅力をご評価いただき、大手インターネットモールのランキング上位に位置することにより、集客力の向上を図っております。

このようにして、従来はリアル店舗で商品現物を見て触って購入することが常識であった家具・インテリア商品等について、インターネット上での商品購入、販売の拡大を図っております。

なお、2023年3月期にインターネットとリアルを融合したOMO型D2C事業体制を構築する方針を打ち出し、2022年9月にイオンリテール株式会社向けに家具の卸売販売を開始するとともに、2024年3月期より当社直営の実店舗展開を開始いたしました。

(ウ) ユーザー行動分析管理の経験・実績

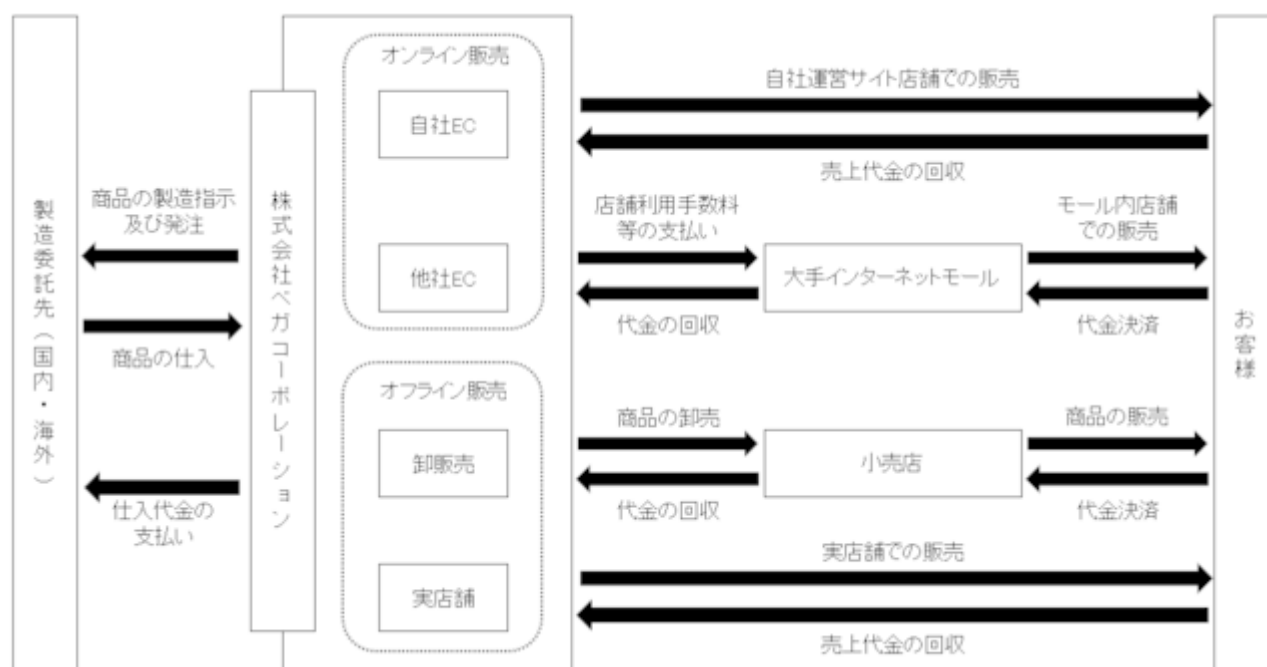
これまでの実績と経験を活かし、楽天市場、Amazon及びYahoo!ショッピングのインターネットモールをはじめとしたWeb全体から、日々家具・インテリア等のトレンド情報を収集・分析しております。その結果、マーケットニーズに適合した新商品の開発を可能としただけでなく、分析結果に基づいたサイトデザインの改善や商品構成の見直しを日々実施し改善点を次の施策に活用するPDCAサイクルを行い、継続的な販売向上を図っております。

(エ) 越境ECプラットフォーム(DOKODEMO)の運営

越境市場をターゲットとした多言語対応、複数の配送方法を選択できる物流システムを特徴とした越境ECサイトの運営をしており、MADE IN JAPANの商品等を世界各地に提供しております。DOKODEMOは、日本の商品を世界120ヵ所以上の国又は地域で受け取ることができる越境ECプラットフォームであり、世界に住む外国人をターゲットにしております。現在、着実にリピート流通が積みあがってきている状況を踏まえ、引き続き営業活動の強化を図りながら出店企業数及び取扱商品数の拡大に取り組み、会員数及び流通総額の更なる上昇に向けた施策を講じております。さらに、収益体質強化にも注力し、早期の収益化に向けて取り組んでおります。

[事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、以下のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

2025年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
244 [34]	33.0	4.6	5,327

セグメントの名称	従業員数(人)
E コマース事業	209 [34]
全社 (共通)	35 [0]
合計	244 [34]

- (注) 1. 従業員数欄の〔 〕書きは外書きで、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
2. 臨時従業員には、アルバイト及びパートタイマーを含み、派遣社員を除いております。
3. 全社(共通)は、総務人事及び経理財務等の管理部及び経営企画部並びに内部監査室の従業員であります。
4. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(2) 労働組合の状況

該当事項はありません。なお、労使関係は円満に推移しております。

(3) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

当事業年度				
管理職に占める 女性労働者 の割合(%) (注) 1	男性労働者の 育児休業 取得率(%) (注) 2	労働者の男女の 賃金の差異(注) 1、3		
		全労働者	正規雇用 労働者	パート・ 有期労働者
14.3	100.0	64.9	71.7	54.7

- (注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。
2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
3. 労働者の人員数について労働時間を基に換算し算出しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において、当社が判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、「誠実」「愛」「感謝」「謙虚」「調和」を経営理念に掲げており、株主の皆様、お客様、取引先、従業員などの直接の利害関係者のみならず、社会全体から愛される企業を目指しております。

また、「ECの可能性を無限大に」という新たなビジョンのもと、当社ならではの新しい常識を発信し、サービスの変革を推し進めていく方針です。

その中で、家具・インテリア等の「家具Eコマース事業」を主軸に、新規事業の「越境ECプラットフォーム事業」と2事業において、新たな価値と最高のサービスをお客様に提供し続けてまいります。

(2) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は企業価値を持続的に高めていくことが経営上の重要課題だと認識しており、目標とする経営指標は、売上高、営業利益、経常利益を主眼に据え、持続的に安定した成長を目指しております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社は、家具・インテリア等の「家具Eコマース事業」を主軸に、新規事業の「越境ECプラットフォーム事業」との2事業において、新たな価値とサービスをお客様に提供し続けてまいります。

家具Eコマース事業におきましては、出会いの創出とお客様のニーズを叶える徹底したCX（カスタマーエクスペリエンス）強化に取り組み、OMO型D2Cビジネスの構築に注力してまいります。具体的には、オンラインだけではリーチできなかったお客様とのタッチポイントを構築するため、実店舗（チャネル）展開による顧客接点強化、生活空間におけるLOWYA商品の占有率の引上げのための商品（プロダクト）カテゴリ拡大、SNS、コミュニティ施策等によるファン拡大や顧客満足度向上（エンゲージメント）及びこれらの諸施策推進を支える物流・ITシステム・人材等のインフラ強化を推進してまいります。

売上高については、2026年3月期において5店舗以上の実店舗の新規出店を目標にチャネル拡大に取り組みます。また、2024年3月期から取り組んでおります、マーケティングコストを適正化した効率的な事業運営も継続し、引き続き旗艦店と大手ECモール内店舗を中心に実店舗出店に伴う影響も含めて、売上高の伸長を狙ってまいります。品揃えについては、自社プライベートブランドにおけるカテゴリ及び商品数の拡充、高利益率商品の開発を継続いたします。費用面については、資源高及び円安による原価上昇並びに配送費高騰への対応が課題となりますが、マーケティングコストの適正化、物流の効率化といった取り組みを継続し、最適なコストコントロールを行いながら、効率的な経営を行ってまいります。また、実店舗の新規出店によるチャネル強化施策や、プロダクト強化、エンゲージメント強化といった各種施策を推進するため、投資が先行する局面も出てまいります。中期的に、実店舗拡大等によるOMO型D2Cビジネスにより売上高の成長率を押し上げることで、長期的なフリーキャッシュフローの最大化を目指してまいります。

越境ECプラットフォーム事業におきましては、台湾を中心にリピートユーザーからの流通が堅調に推移し、先行投資額を一定水準に維持したまま流通総額は安定的に維持しております。引き続き、マーケティングコストを適正化した効率的な運営や取り扱い商品カテゴリの拡充により新規会員を獲得し、流通総額の増加に向けた施策を講じると同時に、収益体質強化にも注力してまいります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社を取り巻く環境は、引き続き、他社との販売競争が続くとともに、円安を含む市況変動による原価率上昇が利益の圧迫要因となるものと予測されます。このような状況の中、当社におきましては、旗艦店による集客をメインとする従来のD2C（直販）モデルに、新たな販売チャネルとして実店舗（オフライン）を加えたOMO型D2Cモデルへ転換し、実店舗の新規出店に注力してまいります。また、商品価値・顧客サービスにおいて差別化を図ること、業界の課題である物流コストの抑制に努めフルフィルメントサービスを強化していくこと、円安を含む市況変動に対する耐性を強化していくことが重要課題であると認識しております。

こうした課題に対応するため、以下の項目に対処すべき重要な経営課題として考えております。

LOWYA事業

ア) OMO型D2Cモデルによる実店舗の新規出店

オンラインだけではリーチできなかったお客様とのタッチポイントを構築するため実店舗（チャンネル）を展開しており、当事業年度において5店舗を開業し、前事業年度に出店した実店舗を含めると、当事業年度末の総店舗数は計8店舗となっております。今後もOMOモデル構築に向けて新規出店の拡大に取り組んでまいります。（2026年3月期は5店舗以上出店目標）

イ) 魅力的で豊富な品揃え

個性・ライフスタイルが多様化しているお客様のニーズにマッチした品質の高い商品を、魅力的な価格で、より多くのお客様に提供するため、自社における商品開発スピードの向上を図り、数多くの商品をリリースしてまいります。あわせて、商品カテゴリを拡充することで、お客様にとっての選択肢を広げ、新規顧客及びリピート顧客の双方の獲得を目指してまいります。

ウ) LOWYAのブランディング及び認知度の向上

当社が運営する家具・インテリアのショッピングサイトLOWYAへの誘導を強化するため、実店舗の新規出店を中心に、さまざまな顧客タッチポイントの拡充を行います。認知度向上を図ることで新規顧客獲得及びリピート顧客増加を推進してまいります。

エ) エンゲージメント強化

潜在顧客への浸透により、様々なライフイベントで当社を想起いただくため、当社の強みである各種公式SNSアカウントに加え、コミュニティ施策、コンテンツ強化に取り組んでまいります。

新規事業への投資

当社は、新規事業として越境ECプラットフォーム事業のための先行投資を行い、企業価値の拡大に努めてまいります。また、中長期的な企業価値拡大を重視したうえで、収益化のタイミングを見計らってまいります。

内部管理体制の充実

当社は、既存事業の成長及び新規事業への投資を行う一方で、リスク管理体制・法令遵守体制を充実させ、会社の成長と経営管理のバランスの取れた組織運営体制の一層の確立を進める方針であります。また、内部統制システムの整備及び充実を継続的に推進してまいります。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社のサステナビリティに関する考え方及び取組みは、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

（１）ガバナンス

当社では、サステナビリティに関する取組みを重要な経営課題として認識しており、積極的に施策を実行しております。

当社のコアバリューは、「誠実・愛・感謝・謙虚・調和」です。サステナビリティに関する取組みの中では、特に「感謝」が重要であると考え、「“ありがとう”を、未来に繋げよう」をサステナビリティポリシーとして定めております。

当該ポリシーに基づくサステナビリティに関する取組みを推進すべく、2023年9月にサステナビリティ委員会を発足いたしました。サステナビリティ委員会は、代表取締役社長を委員長として、年2回開催し、サステナビリティに関する方針や目標の設定、下部組織として設置している環境保全ワーキンググループ、人的資本ワーキンググループ、CSR推進ワーキンググループの各活動におけるモニタリングを実施することとしております。さらに、サステナビリティ委員会で把握し取りまとめた内容は取締役会に報告され、適宜協議されております。

また、リスク管理の対応機関として、取締役、常勤監査等委員、部長以上の役職者で構成するリスクマネジメント委員会を設置し、リスクの頻度・損失の観点から半期毎に検討・協議して、全社的な取組みとして臨んでおります。なお、リスクマネジメント委員会において重大と判断したリスクについては、取締役会に報告されております。

(2) 戦略

マテリアリティ（重要課題）としては、「廃棄物の削減および資源循環の拡大」、「ダイバーシティに富んだ環境づくりおよび従業員の働きがいの追求」、「地域・コミュニティの活性化」を特定しております。

具体的な取り組みとしては、社会福祉施設への寄付、廃棄物量および電気使用量の算定、再生資源のリサイクル等が挙げられます。社会福祉施設への寄付では、児童養護施設、母子生活支援施設等に、撮影に使用した家具等を寄贈しご活用いただくことで、廃棄物削減にも寄与する施策です。廃棄物量および電気使用量の算定では、不必要な廃棄や電気使用等がないかを点検し、サプライチェーン排出量（Scope 2、Scope 3）の削減に取り組んでおります。再生資源のリサイクル等では、季節商品「サステナクール」や「グルーニー」の外装・透明ビニール袋に100%リサイクル素材を採用するとともに、廃ダンボールやストレッチフィルム、商品の廃棄時に発生する廃プラスチックや木くず、金属くず等を細かく分別して再生事業者に引き渡す等、資源循環の拡大を目指しております。

これらのマテリアリティについては、以下のサイトをご参照ください。

<https://www.vega-c.com/sustainability/>

また、当社では、挑戦することで可能性を広げたい従業員に対し機会提供や支援を行なっていくため、「機会をつかむ」という人事ポリシーを掲げております。社員自らが自分を高め、組織に活かされていることを実感できる場として、「働きがい」や「働きやすさ」を感じられる環境を提供することが必要であると考え、以下の方針を定めて推進しております。

- ・働きがいをもつための環境構築
- ・働きやすさを実現するための環境構築

これら2つの方針を実現する施策として、具体的には下記を実行しております。

<働きがい醸成のための施策例>

機会をつかむ人を支援する、機会をつかみ行動した人を讃える施策

性別・年齢・国籍に関係なく、多様なバックグラウンドを持った人が機会をつかめる施策

教育研修、手当：e-learning（正社員対象）、階層別研修、マネジメント実践ゼミ（責任者や希望社員に向けた人事独自の研修）、資格取得に対する受験料手当、手上げ研修（希望する研修や講座があれば申請し、承認されれば受講できる制度）

表彰制度：半期に1回の表彰制度（秀でた成果を創出した人、挑戦をした人、組織内に好影響を發揮した人を讃える）、年間表彰制度（年間MVP、AWARD）

<働きやすさを醸成するための施策例>

挑戦しやすい環境を整える施策

男性育休：育休を取得しやすい職場の風土醸成、就業規則の改定及び周知

有休取得：入社時5日付与、時間休

健診費用の会社負担：子宮がん・乳がん健診、胃カメラ補助等

時短、時差出勤：育児社員、介護社員の時差出勤制度、時短制度

<上記施策等をもとに組織状態を数字で正しく見て、改善に向けた打ち手を実践>

モチベーションクラウド（ ）で社内のエンゲージメントスコアを確認（半期毎に実施）

（ ）12,650社、509万人の実績を持つ組織診断サーベイによって組織状態を可視化・数値化し、これをものさしとして人事担当者や現場社員が「Plan・Do・See」サイクルを回すクラウドサービス。

(3) リスク管理

気候変動の影響は、木材を主な原材料とする当社にとって大きなリスクになり得ると共に、地域・コミュニティの活性化がなければ、当社製品のユーザーであるお客様・子供たちの豊かな未来は描けないと考えております。そこで、環境リスクについては、毎年度の廃棄物量及び二酸化炭素排出量を算出して数値分析を行いながら中長期的な削減策に取り組むことに加え、地域活性化については、支援が必要な公的施設への寄付や安心できる生活空間づくり・コーディネートに取り組むことで、対応・支援しております。

また、人的資本の面では、企業が成長していくうえで、ビジネスをデザインする業務、クリエイティビティを発揮する業務、テクノロジーを駆使する業務等、職種の垣根を越えたチームワークと一人一人が常に成長し続ける姿勢が必要不可欠であると考えております。社会やマーケットの変化に際しても、これを脅威ではなく機会と捉えていくことが重要であります。

以上の点を踏まえ、サステナビリティを含むリスク全体については、内部監査室がリスクを識別、特定し、発生可能性及び事業への影響度を定量化して評価しております。また、リスクマネジメント委員会に評価結果を報告し、リスクの発生の有無や対応策等について協議、検討しております。

サステナビリティに関する機会については、サステナビリティ委員会に紐づく各ワーキンググループにおいて機会を識別、特定し、対応策を検討、実施しております。また、当該内容をサステナビリティ委員会へ報告しております。

(4) 指標及び目標

当社では、上記(2)戦略において記載した人材の多様性確保を含む人材育成に関する方針及び社内環境整備に関する方針について、次の指標を用いております。当該指標に関する目標及び実績は、次のとおりです。

指標	目標	実績(当事業年度)
女性管理職比率	2027年3月までに10%以上	14.3%
男性育休率	2027年3月までに50%以上維持	100.0%
モチベーションクラウド エンゲージメントスコア	2027年3月までに62.0以上	59.2

3 【事業等のリスク】

本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項につきましても、投資家の投資判断上、重要と考えられる事項につきまして、積極的な情報開示の観点から開示しております。当社は、これらのリスク発生の可能性を十分に認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ではありますが、当社株式に関する投資判断は、本項及び本書中の本項以外の記載事項を慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであり、将来において発生の可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。

事業環境にかかわるリスク

(1) 通信販売市場について

当社は、一般生活者を顧客とした通信販売事業を行っており、国内の通信販売の市場規模について、インターネットやスマートフォン等モバイル端末の普及と情報技術の発達を背景としたEコマース市場の寄与から拡大傾向にあることが事業展開の基本条件であると考えております。

しかし、今後新たな法的規制の導入、技術革新の遅れ、利用料金の改定を含む通信事業者の動向など、当社の予期せぬ要因によりインターネット関連市場の発展が阻害される場合には、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) インターネットモールの影響について

当社は、主に楽天市場、Amazon及びYahoo!ショッピング内に店出し、商品販売を行っております。そのため、インターネットモール事業会社との関係悪化や規約違反による店出契約解消、インターネットモールシステム不良等のトラブル、モール閉鎖等が発生した場合、当社の経営成績及び財政状態に大きく影響します。

また、インターネットモールへの依存から脱却するため、旗艦店（自社サイト）での販売強化に努めておりますが、インターネットモールにおける売上が占める割合は依然として高く、手数料率の大幅な改定等により、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 新たなビジネスモデルについて

当社は、ネットとリアルを融合した事業体制を構築する方針を打ち出し、新たなお客様との接触機会の増加及び既存のお客様に対するサービス強化を狙うべく、卸売販売及び直営店の運営を行っています。

期待する売上・利益成長や既存事業領域とのシナジー効果等が実現できなかった場合は、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 競合について

当社はインターネット通信販売事業者として、自社企画商品の更なる強化、サイトの利便性向上やブランド価値向上等に努め、特徴のあるサービスを提供することで競争優位性を有していると考えております。しかしながら、Eコマース事業は参入障壁が低いことから、競合他社による新たな付加価値のあるサービス提供がなされる等により、当社の競争優位性の低下や、価格競争が生じた場合は、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 情報セキュリティ及びシステムトラブルについて

当社は、サービス及びそれを支える情報システム、並びにインターネット接続環境の安定した稼働が、事業運営の前提であると認識しております。したがって、定期的なデータバックアップやセキュリティ対策を実施しているほか、複数のデータセンターへシステムを分散配置することで、安定的なシステム運用体制の構築に努めております。しかしながら、予期せぬ自然災害や事故（社内外の人的要因によるものを含む）、ユーザー数及びアクセス数の急増によるサーバーへの過剰負荷や、ソフトウェアの不具合及びネットワーク経由の不正アクセスやコンピュータウイルスへの感染などのトラブルが発生した場合には、サービスの安定的な提供が困難となり、また復旧等に時間を要した場合、当社の経営成績及び財政状態に多大な影響を及ぼす可能性があります。

(6) 検索エンジンへの対応について

当社のEコマース事業における自社運営サイト内の店舗ユーザーの多くは、特定の検索エンジン（「Google」や「Yahoo! JAPAN」等）の検索結果から誘導されてきており、当該検索エンジンからの集客数を確保するため、今後におきましてもSEO対策を実施していく予定であります。

しかしながら、検索エンジンにおける検索アルゴリズム変更等により、これまでのSEO対策が有効に機能せず、当社への顧客流入数が当社想定数を下回り、十分な顧客獲得に至らなかった場合は、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 海外の生産工場について

当社が販売する商品の大半は中国などアジア各国及び欧州からの輸入によるものです。中国やアジア各国、欧州等、生産拠点を分散し、また新規の協力工場の発掘に努めておりますが一部の地域で戦争・テロ・多国間での紛争及び摩擦・政情不安・自然災害・伝染病・ストライキ等が発生した場合、その地域で生産している商品の供給が一時的にストップし、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(8) 為替相場の変動について

取扱商品の大半は海外から外貨建で輸入しております。為替相場変動リスク回避のため、実需の範囲内で為替予約及び外貨建預金による決済等の手段でヘッジを行っておりますが、大幅な為替相場の変動があった場合には、当社の経営成績及び財政状態に多大な影響を及ぼす可能性があります。

(9) 需要予測に基づく仕入について

当社が販売する商品の大部分は自社企画商品であり、需要予測の精度向上に努めておりますが、実際の受注はライフスタイルの変化や消費者ニーズの変化等の様々な要因に左右されます。そのため、追加仕入が受注量に対応できず販売機会の損失が発生する可能性があります。また、受注量が需要予測に達しない場合は、当社に過剰在庫が発生し、キャッシュ・フローへの影響や棚卸資産評価損が発生する可能性があります。

当社では、需要予測や発注計画の精度の向上等を課題として取り組んでおりますが、需要動向を見誤ったことによる欠品機会損失、又は滞留在庫が生じた場合には、当社の経営成績及び財政状態等に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 知的財産権について

当社の事業活動の優位性を保つため、知的財産権の確保による自社権益の確保に努めておりますが、第三者による権利侵害がなされる可能性があります。

また、第三者の知的財産権を侵害しないことを確認する体制（各種調査、顧問弁護士を含む外部専門家への相談等）を構築しており、当該体制の適切な運用に努めております。しかしながら、事業活動において意図せず第三者の知的財産権の侵害が生じた場合には、事業活動の停止の請求・損害賠償責任を追及されることで、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 商品の品質管理について

当社が販売する商品の大部分は自社企画商品であり、主に海外の生産工場に委託し生産を行っております。当社は、仕入に際しての品質基準の見直しや、品質検査等を強化し、安全な商品の供給に努めております。しかしながら、製品に重大な欠陥が発生しないという絶対的な保証はないため、製造物責任賠償のための保険に加入しておりますが、大規模な製造物責任賠償やリコールにつながるような製品の欠陥は、多額の費用や当社製品の信頼性や社会的評価に重大な影響を与えることとなり、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 返品について

売れ筋商品に対する不具合の発覚等により返品が多数発生した場合には、返品の処理、代替商品の配送等に伴う追加的な費用が発生し、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 配送費上昇について

当社は顧客への商品配達を配送会社へすべて委託しております。当社はリスク分散の観点から、良好な取引関係の維持や新たな配送会社の開拓等につとめております。しかしながら、当社事業の特性上、大型家具を取り扱うことから配送会社の大型配送の撤退や値上げ要請等により、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 法的規制等について

「不当景品類及び不当表示防止法（景品表示法）」、「特定商品取引法」、「製造物責任法」及び「不正競争防止法」等による法的規制を受けております。そのため、従業員教育の徹底、コンプライアンス体制の整備など管理体制の構築等により法令遵守の体制を整備しております。しかしながら、将来にわたり、販売した商品及びその広告表現等において安全上の問題や表示表現等の問題が発生する可能性があります。これらの問題が発生した場合、多額のコストや当社のイメージ低下による売上の減少等が想定され、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(15) 自然災害等について

当社は、事業リスク分散のために複数の事業拠点及び物流拠点を設置し事業運営を行っております。各拠点の地域内において地震、津波等の大規模災害発生により事業拠点または物流拠点が被害を受けた場合や、当社施設内及び取引先において、新型コロナウイルス感染症拡大のようなパンデミックが発生した場合等、当社の想定を超える異常事態が発生した場合には、製造委託先工場の生産や配送業者が操業停止になる可能性、当社の物流が停滞する可能性、従業員が出勤困難になることによるサービスレベルが低下する可能性等があり、その内容及び結果によっては当社の事業及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

人材確保について

当社は、自社で商品企画やデザインを作成し、顧客満足度の高い商品の開発に努めております。また、自社サイトや新規事業で構築したプラットフォームの利便性向上のため、システムエンジニアを多く採用しております。今後、当社が必要とする企画開発力のある人材や技術力のあるシステムエンジニアを計画通り、必要な時期に確保することができなかった場合は、当社の経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

個人情報漏洩について

インターネット販売サイトの運営管理におきましては、登録会員の個人情報を大量に保有しているため、「個人情報保護規程」等を定め、従業員に対する個人情報保護に関する意識の向上を図り、個人情報の漏洩に対し防止策を講じています。

しかしながら、外部からの不正アクセス、システム運用における人的過失、従業員の故意等による個人情報の漏洩、消失、不正利用が発生した場合、信用の失墜を招き、更には損害賠償の対象となることも考えられ、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

コンプライアンス体制について

当社は今後、企業価値を高めていくために、コンプライアンス体制が有効に機能することが重要であると考えております。そのため、従業員教育の徹底、コンプライアンス体制の整備など、管理体制の構築等により法令遵守の体制を整備しております。また、当社の提供する商品については関連法規の遵守はもちろんのこと、法規制以上の自社基準・自社規制を設け、法令遵守及び商品の品質向上に取り組んでおります。しかしながら、将来にわたり、販売した商品及びその広告表現等において安全上の問題や表示表現等の問題が発生する可能性があります。これらの問題が発生した場合、多額のコストや当社のイメージ低下による売上の減少等が想定され、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当事業年度におけるわが国経済は、賃上げによる雇用・所得環境の改善や、インバウンド需要の増加を背景に緩やかな回復傾向となりました。しかしながら、日米金融政策や米国の政策動向等の影響による為替相場の急激な変動や、原材料・エネルギー価格の高騰、物価上昇による消費者心理の悪化に対する懸念が高まっており、内外経済の動向には引き続き注視する必要があります。

家具・インテリア業界におきましては、原材料価格及び物流コストの上昇並びに業態を超えた販売競争の激化等により引き続き厳しい経営環境が続いております。一方、当社の属する雑貨、家具、インテリアのBtoC-EC市場規模は2023年に2兆4,721億円となり、前期比で5.0%増と堅調に拡大しました（出典：令和5年度デジタル取引環境整備事業（電子商取引に関する市場調査）_2024年9月経済産業省）。家具・インテリア業界におけるEC利用率は、他業界よりも低位にとどまっていることから、更なるEC化の進展余地があり、市場拡大を見込んでおります。

このような事業環境の下、当社の家具Eコマース事業におきましては、OMO型D2Cビジネスの確立に向けて、お客様とのタッチポイント拡大のための実店舗展開を積極的に行い、LOWYA（ロウヤ）旗艦店（自社サイト）及び大手ECモール内店舗の流通拡大に取り組んでおります。成長の柱として位置付けているLOWYA旗艦店においては、SNS強化による流通拡大、認知度向上及びモバイルアプリのダウンロードを通じた会員化の促進に取り組みました。また、前期中から利益率改善の取り組みとして、販売促進費や広告宣伝費の抑制を引き続き実施した影響で、アクセス数及び流通は減少したものの、利益効率の良い販売体制の構築を実現することができました。品揃えの面では、従前より取り組んでいる自社プライベートブランドにおける商品カテゴリの拡大及び新商品の投下、ヒット商品の開発、高利益率商品の開発を継続的に取り組みました。

実店舗展開におきましては、出店済みの店舗によるLOWYA旗艦店への好影響も少しずつ見受けられており、OMO型D2Cビジネスの確立に向けた検証も継続的に行ってまいります。また、当期の新規出店については、4～6店舗出店を計画しておりましたが、2024年8月に神奈川県横浜市、2024年9月に東京都世田谷区、2024年10月に広島県安芸郡、2024年11月に大阪府茨木市及び静岡県静岡市の5店舗を出店いたしました。前期に出店した実店舗を含めると、当事業年度末の総店舗数は計8店舗となっております。なお、2025年4月には愛知県安城市へ新規出店し、2025年6月に東京都武蔵村山市、2025年冬に福岡県糟屋郡への出店が決定しております。今後のお客様とのタッチポイント拡大のため、実店舗展開への取り組みを積極的に行ってまいります。

損益面におきましては、為替が円安傾向で推移しましたが、為替予約の実施等により安定的な原価率コントロールを実施しました。また、前期から継続している利益改善の取り組みによるマーケティングコストの適正化を中心に、人件費及び固定費の抑制にも取り組んだ結果、前年同期と比較して大幅な増益となりました。

新規事業として取り組んでいる越境ECプラットフォーム事業（DOKODEMO）は、引き続きインバウンド消費動向の変化及びマーケティングコストの適正化を実施した影響により、流通総額も減少傾向となりましたが、出店者の品揃え充実支援やマーケティング施策等の実施により、会員数及びアプリダウンロード数は順調に増加しており、流通総額拡大に向けて引き続き取り組みを進めてまいります。

以上の取り組みの結果、当社における当事業年度の業績は、売上高は15,935百万円（前期比0.8%減）、営業利益は926百万円（同20.1%増）、経常利益は938百万円（同18.7%増）、当期純利益は591百万円（同50.0%増）となりました。

当事業年度末における財政状態は以下のとおりであります。

当事業年度末における総資産は、8,073百万円（前事業年度末7,209百万円）となり、863百万円増加いたしました。流動資産は6,611百万円（前事業年度末6,153百万円）となり、458百万円増加いたしました。これは主に、売掛金が277百万円、商品が202百万円増加したことによるものであります。また、固定資産は1,462百万円（前事業年度末1,056百万円）となり、405百万円増加いたしました。これは主に、建物が239百万円、敷金及び保証金が137百万円増加したことによるものであります。

負債は、2,114百万円（前事業年度末1,643百万円）となり、471百万円増加いたしました。流動負債は2,000百万円（前事業年度末1,586百万円）となり、413百万円増加いたしました。これは主に、買掛金が131百万円、未払費用が119百万円、未払消費税等が97百万円増加したことによるものであります。また、固定負債は114百万円（前事業年度末56百万円）となり、58百万円増加いたしました。

純資産は、5,958百万円（前事業年度末5,566百万円）となり、392百万円増加いたしました。これは主に、当期純利益を591百万円計上したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）は、営業活動により715百万円の収入、投資活動により466百万円の支出、財務活動により165百万円の支出となった結果、前事業年度に比べ83百万円増加し、当事業年度末には1,922百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度における営業活動の結果として増加した資金は、715百万円（前事業年度は264百万円の資金増加）となりました。

これは主に、売上債権の増加277百万円、棚卸資産の増加202百万円により資金が減少し、税引前当期純利益を938百万円、減価償却費を206百万円計上したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度における投資活動の結果として減少した資金は、466百万円（前事業年度は189百万円の資金減少）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出298百万円、敷金及び保証金の差入による支出154百万円により資金が減少いたしました。

この結果、フリー・キャッシュ・フロー（営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計額）は248百万円のプラス（前事業年度は74百万円のプラス）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度における財務活動の結果として減少した資金は、165百万円（前事業年度は234百万円の資金減少）となりました。

これは主に、自己株式の取得による支出73百万円及び配当金の支払104百万円により資金が減少いたしました。

生産、受注及び販売の実績

(a) 生産実績及び受注実績

当社の取引形態は、一般的な製造等における「生産」活動は行っており、また、当社は見込み生産を行っているため、記載しておりません。

(b) 仕入実績

当事業年度における仕入実績を示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)	前期比(%)
E コマース事業	8,013,970	4.3
合計	8,013,970	4.3

(注) 1. 金額は、仕入価格によっております。

(c) 販売実績

当事業年度における販売実績を示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前期比(%)
E コマース事業		
リビング・ダイニング家具	12,944,964	2.7
ベッド・寝具	1,800,085	+ 15.3
その他	1,190,164	1.2
合計	15,935,215	0.8

(注) 1. 当社の主な販売先は不特定多数の一般消費者であり、販売実績の総販売実績に対する割合が100分の10以上の販売先はありません。

2. E コマース事業の「リビング・ダイニング家具」にはソファ・チェア・デスク等、「ベッド・寝具」にはベット・寝具・マットレス等、「その他」には、その他の家具・インテリア売上等が含まれております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

(a) 経営成績の分析

(売上高)

当事業年度における売上高は15,935百万円(前期比0.8%減)となりました。

当事業年度は、LOWYA(ロウヤ)旗艦店と実店舗のOMO型D2Cモデルへ転換するべく、実店舗の出店に注力しました。また、LOWYA旗艦店においては、SNS強化による認知度向上及びモバイルアプリのダウンロードを通じた会員化の促進に取り組みました。一方で、前事業年度において転換した利益重視の方針を継続し、引き続き販売促進費の適正化に取り組みました。この結果、当事業年度において全体の売上高に占めるLOWYA旗艦店及び実店舗の割合は49.6%となりました。

今後も引き続き、OMOモデル構築に向けた新規出店の拡大及びLOWYA旗艦店強化並びにブランド作りに注力し、売上高の更なる成長と利益獲得に努めてまいります。

(営業利益)

当事業年度における営業利益は926百万円(前期比20.1%増)となりました。

当事業年度は、為替が円安傾向で推移しましたが、為替予約の実施等により安定的な原価率のコントロールを実施するとともに、前事業年度から継続している利益改善の取り組みによるマーケティングコストの適正化を中心に、人件費及び固定費の削減に取り組みました。

引き続き、実店舗出店コストが投資先行となるものの、商品構成の見直しや高利益率商品の開発による利益改善の取り組みや、システム投資による物流の効率化を実現し、物流コストの抑制を図ってまいります。

(経常利益)

当事業年度における経常利益は938百万円(前期比18.7%増)となりました。

当事業年度の主な要因は、営業利益と同様であります。

(当期純利益)

当事業年度における当期純利益は591百万円(前期比50.0%増)となりました。

当事業年度の主な要因は、営業利益と同様であります。

(b) 財政状態の分析

財政状態の分析については、「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当事業年度の運転資金及び資本的支出は、自己資金により賄いました。詳細につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

当社の運転資金需要のうち主なものは、商品の仕入、物流コスト及び人件費であり、所要資金につきましては、自己資金及び借入金を充当する予定であります。

また、翌事業年度において重要な資本的支出は予定しておりませんが、設備投資等の所要資金につきましても、自己資金及び借入金を充当する予定であります。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。なお、この財務諸表の作成に当たっては、合理的判断に基づき一定の会計基準の範囲内で見積りが行われている部分があり、資産・負債や収益・費用の数値に反映しております。また、これらの見積りについては将来事象の結果に特有の不確実性があるため、実際の結果と異なる場合があります。

なお、当社の採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 財務諸表等 (1) 財務諸表 注記事項(重要な会計方針)」に記載しております。

5 【重要な契約等】

(1) Eコマースプラットフォーム運営事業者との契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約の名称	契約内容	契約期間
(株)ベガコーポレーション	楽天グループ(株)	日本	出店契約	ショッピング・モール「楽天市場」出店契約	1年間 (自動更新あり)
(株)ベガコーポレーション	ヤフー(株)	日本	ストアシステム利用契約	ストアシステム「Yahoo!ショッピング」利用契約	1年間 (自動更新あり)
(株)ベガコーポレーション	Amazon Services International, Inc.	米国	プログラム契約	Merchants@Amazon.co.jp プログラム契約	定めなし

6 【研究開発活動】

当社は、より顧客満足度を高めるための高付加価値なサービスを創り続けるため、VR(仮想現実)・AR(拡張現実)等の最先端技術を活用したサービスの研究開発を行っております。

当事業年度における研究開発費の総額は、56百万円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当事業年度中に実施した設備投資の総額は391百万円であります。主な投資は、直営店の設備取得による建物の増加291百万円及び工具器具備品の増加10百万円であります。

2 【主要な設備の状況】

2025年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物	工具、器具 及び備品	ソフト ウェア	その他	合計	
本社 (福岡県 福岡市)	Eコマース 事業	本社機能	9,315	20,822	174,497	55,771	260,407	193 [5]
東京支社 (東京都 港区)	Eコマース 事業	事務所		1,416			1,416	20 []
物流倉庫 (福岡県 北九州市)	Eコマース 事業	倉庫	5,619	19,162		6,466	31,248	4 [1]
物流倉庫 (千葉県 印西市)	Eコマース 事業	倉庫	1,600	35,507		0	37,108	8 []
物流倉庫 (愛知県 豊川市)	Eコマース 事業	倉庫		5,019		1,133	6,152	3 []
物流倉庫 (兵庫県 神戸市)	Eコマース 事業	倉庫	172	8,566			8,739	4 []
店舗 (福岡県 福岡市)	Eコマース 事業	店舗設備	28,525	761	1,781		31,068	1 [4]
店舗 (大阪府 大阪市)	Eコマース 事業	店舗設備	28,539	915	938	1,034	31,428	1 [5]
店舗 (愛知県 名古屋市)	Eコマース 事業	店舗設備	14,917	444	3,685		19,046	2 [4]
店舗 (神奈川県 横浜市)	Eコマース 事業	店舗設備	27,048	1,549	110		28,708	3 [3]
店舗 (東京都 世田谷区)	Eコマース 事業	店舗設備	27,062	1,146	163	736	29,108	1 [3]
店舗 (広島県 安芸郡)	Eコマース 事業	店舗設備	81,491	1,421	71	825	83,809	2 [4]
店舗 (大阪府 茨木市)	Eコマース 事業	店舗設備	65,638	1,592	94	118	67,444	2 [3]
店舗 (静岡県 静岡市)	Eコマース 事業	店舗設備	63,210	1,493	33	3,072	67,810	[2]
店舗 (愛知県 安城市)	Eコマース 事業	店舗設備		1,296			1,296	[]

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」には、主に車両運搬具、建設仮勘定、商標権及び長期前払費用が含まれております。
2. 本社・東京支社・物流倉庫・店舗は、建物の一部を賃借しております。年間賃借料は741,826千円であります。
3. 現在休止中の主要な設備はありません。
4. 従業員数欄の[]書きは外書きで、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000,000
計	36,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2025年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2025年6月27日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	10,692,600	10,705,400	東京証券取引所 グロース市場	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式であります。 なお、単元株式数は100株 であります。
計	10,692,600	10,705,400		

(注) 提出日現在発行数には、2025年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

決議年月日	2015年7月30日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役(監査等委員であるものを除く。) 2 当社監査等委員である取締役 1 当社従業員 26 当社社外協力者 1
新株予約権の数(個)	104 [10] (注) 1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 20,800 [2,000] (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	545 (注) 2
新株予約権の行使期間	2017年8月1日～2025年6月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 545 資本組入額 273
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時において、当社または当社子会社の取締役、監査役、従業員または顧問、社外協力者その他これに準ずる地位を有していなければならない。ただし、新株予約権者が任期満了により退任または定年退職した場合、あるいは取締役会が正当な理由があると認めた場合にはこの限りではない。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権について譲渡、担保権の設定、その他一切の処分をすることができないものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3

当事業年度の末日(2025年3月31日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2025年5月31日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

(注) 1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、200株であります。

ただし、新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てます。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割・併合の比率

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後に時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後行使金額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使金額} + \text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

3. 当社が合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとします。

この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとしたします。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画に定めた場合に限るものとしたします。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとします。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とします。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、上記1に準じて決定いたします。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される新株予約権の行使に際して出資される財産の額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ調整した再編後払込金額に上記にしたがって決定される当該新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られる金額といたします。

新株予約権を行使することができる期間

新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記に定める新株予約権の行使期間の満了日までといたします。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要するものといたします。

決議年月日	2016年3月23日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役(監査等委員であるものを除く。) 3 当社従業員 26
新株予約権の数(個)	212 [212] (注) 1
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 42,400 [42,400] (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	800 (注) 2
新株予約権の行使期間	2018年4月2日～2026年2月28日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 800 資本組入額 400
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時において、当社または当社子会社の取締役、監査役、従業員または顧問、社外協力者その他これに準ずる地位を有していなければならない。ただし、新株予約権者が任期満了により退任または定年退職した場合、あるいは取締役会が正当な理由があると認めた場合にはこの限りではない。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権について譲渡、担保権の設定、その他一切の処分をすることができないものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3

当事業年度の末日(2025年3月31日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2025年5月31日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

(注) 1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、200株であります。

ただし、新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てます。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割・併合の比率

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

調整後払込金額 = 調整前払込金額 × $\frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$

また、新株予約権の割当日後に時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

調整後行使金額 = $\frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使金額} + \text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$

3. 当社が合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとします。
この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものいたします。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画に定めた場合に限るものいたします。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとします。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とします。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を助案の上、上記1に準じて決定いたします。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される新株予約権の行使に際して出資される財産の額は、組織再編行為の条件等を助案のうえ調整した再編後払込金額に上記にしたがって決定される当該新株予約権の目的である株式の数を乗じて得られる金額といたします。

新株予約権を行使することができる期間

新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記に定める新株予約権の行使期間の満了日までといたします。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要するものいたします。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年8月13日(注)1	普通株式 165,000	普通株式 10,539,800	119,955	1,002,359	119,955	962,359
2020年4月1日～ 2021年3月31日(注)2	普通株式 93,800	普通株式 10,633,600	25,376	1,027,735	25,376	987,735
2021年4月1日～ 2022年3月31日(注)2	普通株式 600	普通株式 10,634,200	159	1,027,894	159	987,894
2022年4月1日～ 2023年3月31日(注)2	普通株式 10,000	普通株式 10,644,200	2,657	1,030,551	2,657	990,551
2023年4月1日～ 2024年3月31日(注)2	普通株式 24,800	普通株式 10,669,000	6,576	1,037,128	6,576	997,128
2024年4月1日～ 2025年3月31日(注)2	普通株式 23,600	普通株式 10,692,600	6,431	1,043,559	6,431	1,003,559

(注) 1. 譲渡制限付株式報酬の付与を目的とした新株式の有償発行によるものであります。

発行価格 1,454円

資本組入額 727円

割当先 当社取締役(社外取締役及び監査等委員であるものを除く。)2名
当社執行役員3名

2. ストックオプションとしての新株予約権の行使による増加であります。

3. 2025年4月1日から5月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が12,800株、資本金及び資本準備金がそれぞれ3,488千円増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2025年3月31日現在

区分	株式の状況（ 1単元の株式数100株）								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		5	13	56	22	12	5,965	6,073	
所有株式数 (単元)		5,210	1,525	36,134	5,526	480	57,987	106,862	6,400
所有株式数 の割合(%)		4.88	1.43	33.81	5.17	0.45	54.26	100.00	

(注) 1. 自己株式300,270株は、「個人その他」に3,002単元、「単元未満株式の状況」に70株含まれております。

2. 「金融機関」に、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する株式1,097単元が含まれております。なお、当該株式については、財務諸表において自己株式として表示しております。

(6) 【大株主の状況】

2025年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所 有株式数の割合 (%)
株式会社アルタイル	福岡県福岡市中央区天神 2 - 3 - 10 天神 パインクレスト719号	3,600,000	34.64
浮 城 智 和	福岡県福岡市中央区	2,870,500	27.62
手 島 武 雄	福岡県筑紫野市	388,800	3.74
野村信託銀行株式会社(投信口)	東京都千代田区大手町 2 - 2 - 2	232,400	2.23
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタン レー UFG証券株式会社)	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町 1 - 9 - 7 大手 町フィナンシャルシティサウスタワー)	135,400	1.30
BBH LUX/BROWN BROTHERS HARRIMAN (LUXEMBOURG) SCA CUSTODIAN FOR SMD-AM FUNDS - DSB1 JAPAN EQUITY SMALL CAP ABSOLUTE VALUE (常任代理人 株式会社三井住友銀 行)	80 ROUTE D'ESCH LUXEMBOURG LUXEMBOURG L-1470 (東京都千代田区丸の内 1 - 1 - 2)	125,600	1.20
株式会社日本カストディ銀行(信託 E口)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 12	109,750	1.05
ベガコーポレーション従業員持株会	福岡県福岡市博多区祇園町 7 - 20 博多祇 園センタープレイス 4 階	106,900	1.02
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区赤坂 1 - 8 - 1 赤坂インター シティAIR	102,600	0.98
BBH(LUX) FOR MUFG GLOBAL FUND SICAV - MUFG JAPAN EQUITY SMALL CAP FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ 銀行)	19, RUE DE BITBOURG LUXEMBOURG LUXEMBOURG L-1273 (東京都千代田区丸の内 1 - 4 - 5 決済 事業部)	82,400	0.79
計	-	7,754,350	74.62

(注) 1. 持株比率は、自己株式(300,270株)を控除して計算しております。

なお、自己株式には「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する株式109,750株は含めておりません。

2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

野村信託銀行株式会社(投信口) 232,400株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 102,600株

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 300,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,386,000	103,860	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株となっております。
単元未満株式	普通株式 6,400		
発行済株式総数	10,692,600		
総株主の議決権		103,860	

(注) 1. 「単元未満株式」には当社所有の自己株式70株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式109,750株(議決権の数1,097個)が含まれております。

【自己株式等】

2025年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(株)ベガコーポレーション	福岡県福岡市博多区祇園町 7番20号	300,200		300,200	2.81
計		300,200		300,200	2.81

(注) 1. 上記のほか、当社所有の単元未満自己株式70株があります。

2. 「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式109,750株については、上記の自己株式等を含めておりません。

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

株式給付信託(J-ESOP)

(1) 株式給付信託の概要

当社は、2017年11月30日開催の取締役会決議において、当社の株価や業績と従業員の処遇の連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託(J-ESOP)」を導入しております。

本制度は、あらかじめ当社が定めた「株式給付規程」に基づき、一定の要件を満たした当社の従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社は、従業員に対し個人の貢献度等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。従業員に対し給付する株式については、あらかじめ信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

(2) 従業員に取得させる予定の株式の総数

218,000株

(3) 当該従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

「株式給付規程」に基づき株式給付を受ける権利を取得した当社の従業員

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2025年1月31日)での決議状況 (取得期間2025年2月1日～2025年3月24日)	100,000	100,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	100,000	73,767
残存決議株式の総数及び価額の総額		26,232
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		26.2
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		26.2

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	46	34
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における保有自己株式数には、2025年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、株式交付、 会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 ()				
保有自己株式数	300,270		300,270	

(注) 1. 当期間における保有自己株式数には、2025年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

2. 当事業年度における「保有自己株式数」には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する109,750株は含めておりません。なお、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する株式は、財務諸表において自己株式として表示しております。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つと認識しており、経営体質の強化、将来の事業規模拡大に向けた更なる先行投資的な事業資金のための内部留保は確保しつつ、企業価値の拡大、経営環境並びに業績等を総合的に勘案し、D O E 2.0%を基準として配当を行うことを基本方針としております。

当社は、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当等を行うことができる旨を定款に定めております。また、期末配当の年1回を基本的な方針としておりますが、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

上記方針に基づき、当事業年度の期末配当につきましては、1株当たり11円といたしました。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2025年6月26日 定時株主総会決議	114,315	11.00

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

企業統治に対する基本的な考え方

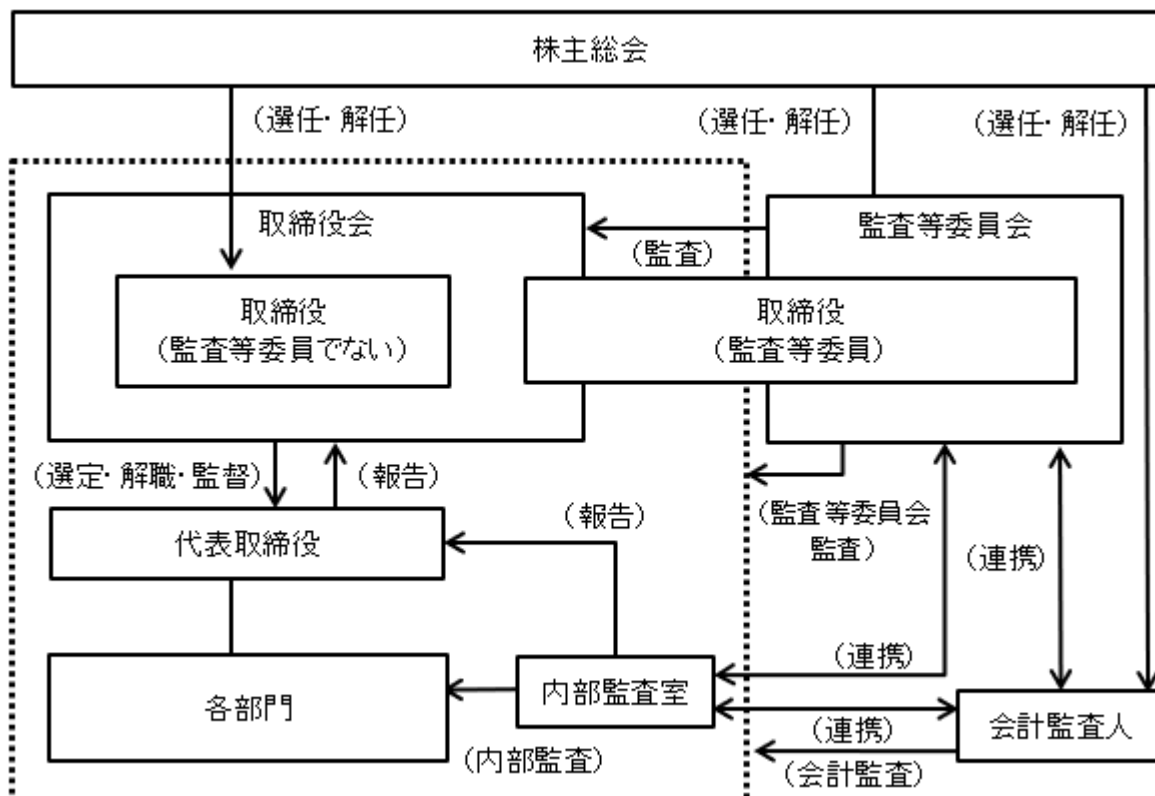
当社は、企業価値の持続的な増大を図るには、コーポレート・ガバナンスが有効に機能することが不可欠であるとの基本認識の下、コーポレート・ガバナンス体制の充実・強化に努めております。まず、株主に対する説明責任を果たすべく、適時かつ適切な情報開示の実施と経営の透明性の確保を重視しております。また、変化の速い経営環境に対応して、迅速な意思決定及び業務執行を可能とする経営体制を構築するとともに、経営の効率性、有効性及び法令遵守を担保する経営監視体制の充実・強化を図ってまいります。さらに、健全な企業風土や倫理観に基づくコンプライアンス体制を確保し、株主、債権者及び顧客をはじめとするステークホルダー（利害関係者）の信頼を得て、グローバルな事業活動を展開していく方針であります。今後も当社の成長に応じてコーポレート・ガバナンス体制を随時見直し、企業価値の最大化を図ることに努めてまいります。

企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社は、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の強化を図るため、2015年7月に監査等委員会設置会社に移行いたしました。以下の理由により、当社にとってこの企業統治体制を採用することが、前記に記載のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方を実現するためには、他の体制よりも優位性があると判断しております。

- ・過半数を社外取締役で構成する監査等委員会を置く監査等委員会設置会社に移行することにより、取締役会の監督機能の強化を図り、経営の透明性の確保と効率性の向上を図ることができるため。
- ・取締役会は、業務執行取締役に対し業務執行の決定を大幅に委任することが可能であり、また、業務執行取締役は、その指揮の下で責任の明確化を図りつつ重要な課題に迅速かつ柔軟に対応することができるため。

本書提出日現在、当社のコーポレート・ガバナンスの体制の概要は、以下のとおりであります。



企業統治に関するその他の事項

当社は、取締役会において、下記のとおり「内部統制システム構築の基本方針」を定め、これに基づいて内部統制システム及びリスク管理体制の整備を行っております。

(イ) 当社の取締役及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(a) 当社は、取締役及び従業員の職務の執行が、法令及び定款に適合することを確保するため、「経営理

念」をより具体化した「ベガコーポレーション行動規範」を制定し、取締役及び従業員はこれを遵守しております。

- (b) 当社の経営管理本部（法務グループ）をコンプライアンスの統括部署として、当社の取締役及び従業員に対する適切な教育研修体制を構築しております。
- (c) 当社の取締役及び従業員の職務執行の適切性を確保するため、当社に社長直轄の内部監査室を設置し、「内部監査規程」に基づき内部監査を実施しております。また、内部監査室は必要に応じて会計監査人及び監査等委員会と情報交換し、効率的な内部監査を実施しております。
- (d) 当社は、「取締役会規程」をはじめとする社内諸規程を制定し、その遵守状況を監査等委員会及び内部監査室がモニタリングしております。

(ロ) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- (a) 取締役会議事録、その他重要な書類等の取締役の職務執行に係る情報の取扱いは、「情報管理規程」等の社内規程に基づき、文書又は電磁的媒体に記録し、適切に保存及び管理しております。
- (b) 文書管理部署の経営管理本部（総務グループ）は、取締役の閲覧請求に対して、いつでもこれらの文書を閲覧に供する体制を整えております。

(ハ) 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、当社のリスク管理体制を構築する責任と権限を有し、これに従いリスク管理に係る「リスク管理規程」を制定し、多様なリスクを可能な限り未然に防止し、危機発生時には企業価値の毀損を極小化するための体制を整備しております。

(ニ) 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (a) 当社では、定時取締役会を毎月1回開催するほか、機動的に意思決定を行うため、臨時取締役会を開催し、適切な職務執行が行える体制を確保しております。
- (b) 当社では、取締役会の意思決定に資するため、取締役会付議事項の事前検討を行うとともに、当社の取締役会で決定した方針及び計画に基づき、当社の総務担当部署が取締役会の指示、意思決定を各部門長に伝達しております。
- (c) 当社では、取締役会において、各部署から報告された多様なリスクを可能な限り未然に防止できるよう検討を行っております。
- (d) 日常の職務の執行において、当社の取締役会の決定に基づく職務執行を効率的に行うため、「職務権限規程」及び「業務分掌規程」等の社内諸規程に基づき、権限の委譲を行い、各部署の責任者が意思決定ルールに則り業務を分担しております。

(ホ) 当社における業務の適正を確保するための体制及び取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

- (a) 当社の「经营理念」を具体化した「ベガコーポレーション行動規範」を共有し、企業価値の向上と業務の適正性を確保しております。
- (b) 内部監査室による業務監査により、会社の業務全般にわたる法令及び規程の遵守を確保しております。
- (c) 各部署を取締役が管掌し、各部門の独走の抑止を図る体制を確保しております。また、当社の「取締役会規程」等社内規程に基づき、事前協議事項及び事後報告事項等も定め、重要事項に関しては経営陣への事前協議又は報告を受けております。

(ヘ) 当社の監査等委員会の職務を補助すべき従業員に関する体制

- (a) 監査等委員会の職務を補助すべき従業員は、必要に応じてその人員を確保いたします。当該従業員は、監査等委員会の指揮命令を受け、監査等委員会の職務を補助いたします。
- (b) 当該従業員の他部門への異動等については、事前に監査等委員会へ報告を行うものとします。
- (c) 当該従業員が監査等委員会の職務を補助すべき期間中の指揮権は、監査等委員会に委嘱されたものとして、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の指揮命令は受けないものとします。

(ト) 当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び従業員又はこれらの者から報告を受けた者が監査等委員会に報告をするための体制、その他の監査等委員会への報告に関する体制

- (a) 監査等委員は、監査等委員会が定める監査計画に従い、当社の取締役及び従業員から重要事項の報告を求めることができます。
- (b) 当社の取締役及び従業員は、重要な法令又は定款違反及び不正な行為並びに当社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を知ったときは、監査等委員に報告いたします。

(チ) 監査等委員会へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社は、監査等委員会へ報告を行った当社の取締役及び従業員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社の取締役及び従業員に周知徹底いたします。

(リ) 監査等委員会の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項及び監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (a) 当社は、監査等委員会がその職務の執行について生ずる費用の前払又は償還等の請求をしたときは、当該請求に係る費用又は債務が当該監査等委員の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理いたします。
- (b) 監査等委員会は、当社取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び従業員の職務の執行状況を監査等委員会の定める監査方針及び分担に従って監査するとともに、会計監査人及び内部監査室と情報交換を密にし、連携して監査の実効性を確保いたします。

(ヌ) 当社の財務報告の信頼性を確保するための体制

当社の代表取締役は、「内部統制システム構築の基本方針」及び別途定める「財務報告に係る内部統制の基本方針」に基づき、財務報告に係る内部統制の整備及び運用を行っております。

取締役会は、代表取締役が構築する財務報告に係る内部統制に関し、適切に監督を行っております。

(ル) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方と体制

当社は、「ベガコーポレーション行動規範」に基づき、社会秩序や企業の健全な事業活動に脅威を与える反社会的勢力との取引その他一切の関係を遮断し、反社会的勢力から不当な要求等を受けた場合には、「反社会的勢力対応規程」に基づき、毅然とした姿勢で臨む体制を構築いたします。

取締役会の活動状況

当事業年度において当社は取締役会を17回開催しており、個々の取締役の出席状況については次のとおりであります。

役職	氏名	開催回数	出席回数
代表取締役社長	浮城 智和	17回	17回
取締役	河端 一宏	17回	17回
取締役	吉田 裕紀	14回	14回
取締役（監査等委員）	池田 浩之	17回	17回
取締役（監査等委員）	佐野 俊明	17回	16回
取締役（監査等委員）	江口 克哉	17回	17回

（注）吉田裕紀氏は、2024年6月26日開催の第20回定時株主総会において取締役に就任しておりますので、就任後に開催された取締役会の出席状況を記載しております。

取締役会における具体的な検討内容として、主に決算・予算等財務関連、投資判断を含む経営戦略、資本政策等の事項について決議を行いました。また、財務状況及び重要な職務の執行状況を始め、内部統制、内部監査等について適切に報告を受けております。

取締役の責任免除

当社は、取締役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的として、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役の損害賠償責任を法令の限度において、取締役会の決議により免除することができる旨を定款に定めております。

役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することとなる、その職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により填補することとしており、全ての取締役は当該保険契約の被保険者に含められます。

責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく賠償責任限度額は、同法第425条第1項に規定する最低責任限度額をもって、損害賠償責任の限度としております。

取締役の定数

当社の取締役（監査等委員であるものを除く。）は、5名以内とする旨を定款で定めております。

当社の監査等委員である取締役は、4名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任決議

当社は、取締役の選任決議については、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款で定めております。

自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

会社法第309条第2項に定める決議

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

中間配当の定め

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議により毎年9月30日を基準日として、会社法第454条第5項に定める中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性6名 女性 名（役員のうち女性の比率 %）

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	浮城 智和	1976年11月25日	2004年7月	有限会社ベガコーポレーション（現当社） 代表取締役就任（現任）	（注）2	6,470,500 （注）5
取締役 経営管理本部長	河端 一宏	1982年1月28日	2004年3月 2005年7月 2012年1月 2013年1月 2015年7月	株式会社日経ビジネスエージェンツ 入社 株式会社ハマエンジニアリング 入社 当社 入社 当社総務人事部長 当社取締役 経営管理本部長就任（現任）	（注）2	46,200
取締役 LOWYA事業本部長 ・人事室長	吉田 裕紀	1984年1月21日	2008年4月 2018年1月 2022年10月 2023年3月 2024年4月 2024年6月	株式会社リクルート 入社 当社 入社 当社執行役員 人事統括部長 当社執行役員 営業・人事統括部長就任 九州大学経済学部産業マネジメント専攻修了 （経営修士：MBA） 当社執行役員 LOWYA事業本部長・人事室長 就任 当社取締役 LOWYA事業本部長・人事室長就任 （現任）	（注）2	33,700
取締役 （監査等委員） （注）1	久保 俊幸	1957年7月29日	1980年4月 2003年6月 2005年2月 2008年5月 2011年4月 2018年4月 2019年1月 2020年1月 2020年11月 2025年6月	株式会社西日本銀行（現株式会社西日本シティ 銀行）下関支店 入行 同行和白支店長 同行久留米営業部事務グループ担当部長 同行西新中央支店長 西日本ユウコー商事株式会社 総務部長兼人事 部長 アイ・ケイ・ケイ株式会社（現アイ・ケイ・ケ イ・ホールディングス株式会社） 入社 同社監査役（常勤）就任 同社取締役（監査等委員）（常勤）就任 アイ・ケイ・ケイ株式会社 監査役就任 当社社外取締役（監査等委員）就任（現任）	（注）3	
取締役 （監査等委員） （注）1	佐野 俊明	1978年11月20日	2009年12月 2010年1月 2012年1月 2016年1月 2019年7月 2020年3月 2020年5月 2022年3月 2023年6月	弁護士登録（福岡県弁護士会） 株式会社西日本シティ銀行 入行 弁護士法人北浜法律事務所 入所 弁護士法人北浜法律事務所パートナー弁護士に 就任（現任） NCBキャピタルインベストメント株式会社 監 査役就任 九州大学経済学部産業マネジメント専攻修了 （経営修士：MBA） 株式会社NCBベンチャーキャピタル 監査役就 任（現任） NCBキャピタル株式会社 監査役就任 当社社外取締役（監査等委員）就任（現任）	（注）3	

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 (監査等委員) (注) 1	江口 克哉	1966年 4 月29日	1990年 4 月 1995年10月 1999年 4 月 2006年 9 月 2006年10月 2010年 6 月 2023年 6 月	九州松下電器株式会社 入社 監査法人トーマツ(現有限責任監査法人トーマツ)入所 公認会計士登録 江口克哉公認会計士事務所を開業(現任) 税理士登録 日本公認会計士協会北部九州会佐賀県部会部会長就任 当社社外取締役(監査等委員)就任(現任)	(注) 3	
計						6,550,400

- (注) 1. 取締役久保俊幸、取締役佐野俊明及び取締役江口克哉は、社外取締役であります。
2. 任期は、2025年 6 月26日開催の定時株主総会における選任後 1 年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
3. 任期は、2025年 6 月26日開催の定時株主総会における選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
4. 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。
委員長 久保 俊幸、委員 佐野 俊明、委員 江口 克哉
5. 代表取締役社長浮城智和の所有株式数は、資産管理会社である株式会社アルタイトルの株式数も合算して記載しております。
6. 当社では、業務執行機能を高め経営の迅速化及び効率化を図り、組織運営の活性化を推進するため、執行役員制度を導入しております。なお、本書提出日現在、執行役員はおりません。

社外取締役に関する事項

当社は、社外取締役 3 名を選任しております。社外取締役を選任するために当社からの独立性に関する基準や方針は定めていないものの、選任にあたっては、東京証券取引所の定める独立役員に関する基準等を参考に選任しております。各社外取締役と当社の間には、人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。当社は、社外取締役 3 名全員を、一般株主と利益相反の生じる恐れがない独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

取締役久保俊幸は、監査役としての豊富な経験を有しており、当社の経営全般について客観的視点で助言及び監査していただけるものと判断し、社外取締役として選任しております。

取締役佐野俊明は、弁護士であり、弁護士として培われた専門的な知識と経験を有しており、取締役江口克哉は、公認会計士であり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有し、それぞれ専門職の職業倫理の観点から経営監視を実施しております。

また、内部統制部門からは、内部統制の運用状況についての報告を監査等委員会で受け、意見交換を行うことにより連携を図っております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会監査の状況

監査等委員会は、社外取締役3名の監査等委員で構成されており、監査等委員会監査等基準に準拠し、監査等委員会で策定した監査の方針、職務の分担等に従い、内部監査室と連携の上、取締役会のほか、必要に応じてその他の重要な会議にも出席し、監査に必要な資料の閲覧等も行い情報共有することにより、取締役の職務の執行の監査を行います。

当事業年度において当社は監査等委員会を原則月1回開催しており、個々の監査等委員の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
池田 浩之	13回	13回
佐野 俊明	13回	12回
江口 克哉	13回	13回

監査等委員会における具体的な検討事項及び共有事項は、以下のとおりであります。

検討事項

）監査等委員会監査報告書

年間の監査結果に基づき監査報告書を作成いたしました。

）会計監査人の評価

監査等委員会が規定した「会計監査人の再任に係る判断基準」に従い評価を実施した結果、現会計監査人である有限責任監査法人トーマツに大きな問題は見当たらず、当社の会計監査人として再任することが妥当と判断いたしました。

）監査等委員以外の取締役の選任・報酬に関する意見

監査等委員以外の取締役3名の選任について協議をした結果、当事業年度における業務執行状況等を踏まえ、各候補者が当社の取締役として適任であると判断し、その旨株主総会議案に記載することにいたしました。また、監査等委員以外の取締役の報酬について、協議をした結果、株主総会決議金額の範囲内であり適正と判断いたしました。

）監査の方針、職務の分担、監査計画

監査方針、重点項目、各監査等委員の職務の分担、年間の監査計画を検討し策定いたしました。

）監査等委員会委員長、常勤監査等委員、選定監査等委員、特定監査等委員の選定

新たに選任された監査等委員の中から監査等委員会委員長、常勤監査等委員、選定監査等委員、特定監査等委員を選定いたしました。

）監査等委員の個人報酬額

監査等委員の個別報酬額を株主総会決議金額の範囲内で決定いたしました。

）会計監査人の監査報酬の同意

会計監査人の監査報酬金額について協議をした結果適切であると判断し監査等委員会として同意する旨決議いたしました。

）会計監査人の非保証業務の提供に関する承認

会計監査人と同一のネットワークによる非監査業務の提供の内容を検討し事前に承認いたしました。

）監査等委員会実効性評価導入に関する協議を行いました。

共有事項

下記事項について原則毎月の監査等委員会にて報告を受け、質疑応答、意見交換を実施致しました。

）内部監査結果

）コンプライアンス関連事項

）常勤監査等委員監査活動状況

監査等委員の主な活動は、以下のとおりであります。

	常勤監査等委員	非常勤監査等委員
重要会議への出席		
１．取締役会・監査等委員会	○	○
２．リスクマネジメント委員会	○	
３．コンプライアンス委員会	○	
４．情報セキュリティ委員会	○	
５．内部統制・JSOX委員会	○	
６．サステナビリティ委員会	○	
７．週次営業会議	○	
社長面談	○	○
取締役、従業員個別面談	○	
重要な決裁書類、契約書閲覧	○	
本社および主要な事業所の業務及び財産状況の調査	○	
取締役の法令制限事項（競合避止・利益相反取引等）の調査	○	
内部監査室との面談、連携	○	
会計監査人との面談、連携	○	○
内部通報窓口	○	

内部監査の状況

内部監査は、内部監査室（本書提出日現在１名）に所属する内部監査室長が行っております。内部監査室長は、内部監査規程及び代表取締役社長の承認を得た内部監査計画に基づき、主体的に監査を行っております。内部監査の実効性を確保するための取り組みとして、監査の結果は、取締役会への直接報告は行われておりませんが、代表取締役社長に対し直接報告されると同時に監査等委員会にも報告されます。また被監査部署にも通知され、後日、改善状況の確認が行われております。

会計監査の状況

a．監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

b．継続監査期間

14年

c．業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 野澤啓

指定有限責任社員 業務執行社員 高尾圭輔

d．監査業務に係る補助者の構成

当社の第21期事業年度に係る補助者は、公認会計士６名、会計士試験合格者10名、その他６名の合計22名で監査業務に携わっております。

e．監査法人の選定方針と理由

監査等委員会が有限責任監査法人トーマツを会計監査人を選任した理由は、同法人の独立性、品質管理体制及びグローバルな監査体制について監査等委員会で定める会計監査人評価・選定基準に基づき検討を行い、適任と判断したためであります。

f．監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、監査等委員会で定める会計監査人評価・選定基準に基づき評価を行っております。

監査報酬の内容

a. 監査公認会計士等に対する報酬

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
24,500		24,500	

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（a.を除く）

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
	1,500		72,500

（非監査業務の内容）

前事業年度

非監査業務に基づく報酬は、税務に関する助言業務に対する対価であります。

当事業年度

非監査業務に基づく報酬は、主に基幹システム刷新に関する助言業務及びPMOに対する助言業務に対する対価であります。

c. 監査報酬の決定方針

当社の規模・特性、監査日数等の諸要素を勘案し、監査等委員会の同意を得て、取締役会で決定しております。

d. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、過年度の監査計画における監査項目別、階層別監査時間の実績及び報酬額の推移並びに会計監査人の職務遂行状況を確認し、当事業年度の監査計画及び報酬額の妥当性を検討した結果、監査法人の報酬等について会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

取締役の報酬等の決定方針の決定方法及びその方針の概要

取締役の報酬等は、株主総会の決議により定められた取締役（監査等委員であるものを除く）及び監査等委員である取締役のそれぞれの報酬限度額の範囲内で決定しております。取締役の個人別の報酬については、2025年6月26日開催の取締役会において、その内容に係る決定方針を決定しております。当該決定方針の概要は以下のとおりであります。

a．基本方針

当社の取締役（監査等委員であるものを除く）及び監査等委員の報酬等は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして十分に機能するよう株主利益と連動した報酬体系とし、個々の取締役及び監査等委員の報酬の決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針とします。具体的には、代表取締役の報酬は固定報酬としての月例の基本報酬のみ、業務執行取締役の報酬は固定報酬としての月例の基本報酬（40%～80%）及び株式報酬（20%～60%）により構成し、監査等委員である取締役については、固定報酬としての月例の基本報酬のみを支払うこととします。

b．取締役の報酬等の額及びその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の基本報酬の上限額は、取締役（監査等委員であるものを除く）については2015年7月30日開催の臨時株主総会決議により年額500,000千円（使用人兼務役員の使用人分の報酬を除く）、監査等委員である取締役については2015年7月30日開催の臨時株主総会決議により年額50,000千円となっております。当該臨時株主総会終結時点の取締役（監査等委員であるものを除く）は3名、監査等委員である取締役は2名であります。取締役（監査等委員であるものを除く）の個人別の報酬額等については、取締役会決議に基づき代表取締役社長浮城智和がその具体的内容について委任を受けるものとし、その権限の内容は、各取締役の基本報酬の額及び各取締役の職責を踏まえた株式報酬の額とします。代表取締役社長浮城智和に委任をした理由は、当社全体の業績を俯瞰しつつ各取締役の担当領域や職責の評価を行うには代表取締役社長が最も適していると判断したためであり、代表取締役社長浮城智和は、株主総会において決議された報酬総額の限度内で、各取締役の職責、貢献度及び執行状況並びに会社の業績や経済状況等を勘案し個人別の報酬額を決定しております。また、監査等委員である取締役の個人別の報酬額は、株主総会で決定した上限額に基づき、監査等委員会にて各監査等委員である取締役の配分を協議して決定しております。これらの手続きを経て取締役の個人別の報酬額が決定されていることから、取締役会はその内容が決定方針に沿うものであり、相当であると判断しております。

また、2020年6月23日開催の定時株主総会において、取締役（監査等委員であるものを除く）に対し、株価変動のメリットとリスクを株主の皆様とより一層共有し、株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めるため、譲渡制限付株式報酬制度を導入することを決議しております。当該定時株主総会終結時点の取締役（監査等委員であるものを除く）は3名であります。譲渡制限付株式報酬の上限額及び上限株式数は、2025年6月26日開催の定時株主総会決議により、年額490,000千円及び280,000株以内であり、原則として7事業年度にわたる職務執行の対価に相当する額を一括して支給しますので、実質的には1事業年度70,000千円及び40,000株以内での支給に相当します。当該定時株主総会終結時点の取締役（監査等委員であるものを除く）は3名であります。

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の 総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	譲渡制限付 株式報酬	
取締役(監査等委員を除く) (社外取締役を除く。)	95,573	76,650			18,923	3
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く。)						
社外取締役(監査等委員)	12,600	12,600				3

(注) 1．譲渡制限付株式報酬の額は、株式報酬費用として当事業年度に費用計上した額です。

2．使用人を兼務している取締役はいないため、使用人分給与はありません。

提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である役員が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、保有目的が純投資目的である投資株式のみ投資を実行する方針であります。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

該当事項はありません。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

c．特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表 計上額の合計額 (千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表 計上額の合計額 (千円)
非上場株式	6	0	6	0
非上場株式以外の株式				

区分	当事業年度			
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)	
			含み損益	減損 処理額
非上場株式				
非上場株式以外の株式				

当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

当事業年度の前4事業年度及び当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1.財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2.監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

3.連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4.財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、監査法人との情報交換を密にするとともに、各種団体主催のセミナーへの参加等情報収集を行うようにしております。

1 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,750,184	1,835,809
売掛金	¹ 1,739,849	¹ 2,016,942
商品	2,110,508	2,312,560
前渡金	124,944	139,515
前払費用	143,768	143,958
未収消費税等	69,149	-
為替予約	94,614	-
その他	120,073	162,575
流動資産合計	6,153,093	6,611,361
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	113,368	353,141
車両運搬具（純額）	5,466	4,784
工具、器具及び備品（純額）	115,075	101,116
建設仮勘定	288	35,358
有形固定資産合計	² 234,199	² 494,401
無形固定資産		
ソフトウェア	261,438	181,376
ソフトウェア仮勘定	-	20
商標権	22,993	18,181
その他	75	75
無形固定資産合計	284,507	199,654
投資その他の資産		
投資有価証券	91,703	93,663
従業員に対する長期貸付金	85	-
長期前払費用	8,696	10,737
繰延税金資産	186,921	275,903
敷金及び保証金	250,498	387,796
その他	3,226	3,226
貸倒引当金	3,200	3,200
投資その他の資産合計	537,930	768,128
固定資産合計	1,056,637	1,462,183
資産合計	7,209,731	8,073,545

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	242,433	373,720
未払金	787,139	823,125
未払費用	58,763	178,355
未払法人税等	264,602	285,483
未払消費税等	-	97,248
契約負債	1 80,240	1 56,013
返品負債	1 9,527	1 11,235
為替予約	-	1,172
預り金	33,956	20,359
賞与引当金	101,112	141,112
製品保証引当金	6,337	6,337
その他	2,638	6,134
流動負債合計	1,586,752	2,000,299
固定負債		
株式給付引当金	56,349	47,025
資産除去債務	-	67,377
固定負債合計	56,349	114,403
負債合計	1,643,101	2,114,702
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,037,128	1,043,559
資本剰余金		
資本準備金	997,128	1,003,559
その他資本剰余金	23,625	23,625
資本剰余金合計	1,020,753	1,027,184
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	3,747,515	4,234,497
利益剰余金合計	3,747,515	4,234,497
自己株式	319,237	359,715
株主資本合計	5,486,159	5,945,525
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	14,694	14,131
繰延ヘッジ損益	65,757	814
評価・換算差額等合計	80,451	13,317
新株予約権	18	-
純資産合計	5,566,629	5,958,842
負債純資産合計	7,209,731	8,073,545

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
売上高	1 16,063,441	1 15,935,215
売上原価		
商品期首棚卸高	1,819,594	2,110,508
当期商品仕入高	8,358,749	7,974,247
合計	10,178,344	10,084,755
商品期末棚卸高	2 2,110,508	2 2,312,560
商品売上原価	8,067,835	7,772,195
売上総利益	7,995,605	8,163,019
販売費及び一般管理費	3, 4 7,223,815	3, 4 7,236,424
営業利益	771,789	926,595
営業外収益		
為替差益	128	1,750
受取補償金	7,074	7,330
消費税差額	-	1,861
その他	12,425	5,264
営業外収益合計	19,628	16,208
営業外費用		
投資事業組合運用損	989	1,634
物品売却損	-	3,026
その他	175	54
営業外費用合計	1,165	4,715
経常利益	790,253	938,088
特別利益		
固定資産売却益	5 76	-
特別利益合計	76	-
特別損失		
投資有価証券評価損	110,003	-
特別損失合計	110,003	-
税引前当期純利益	680,326	938,088
法人税、住民税及び事業税	305,393	405,939
法人税等調整額	19,425	59,520
法人税等合計	285,968	346,418
当期純利益	394,358	591,669

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,030,551	990,551	23,625	1,014,176
当期変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）	6,576	6,576		6,576
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
株式給付信託による自己株式の処分				
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	6,576	6,576	-	6,576
当期末残高	1,037,128	997,128	23,625	1,020,753

	株主資本			
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
	繰越利益剰余金			
当期首残高	3,459,597	3,459,597	196,233	5,308,091
当期変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）				13,153
剰余金の配当	106,439	106,439		106,439
当期純利益	394,358	394,358		394,358
自己株式の取得			141,704	141,704
株式給付信託による自己株式の処分			18,700	18,700
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	287,918	287,918	123,004	178,067
当期末残高	3,747,515	3,747,515	319,237	5,486,159

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
当期首残高	14,202	17,919	3,716	18	5,304,393
当期変動額					
新株の発行（新株予約 権の行使）					13,153
剰余金の配当					106,439
当期純利益					394,358
自己株式の取得					141,704
株式給付信託による 自己株式の処分					18,700
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	492	83,676	84,168	0	84,168
当期変動額合計	492	83,676	84,168	0	262,235
当期末残高	14,694	65,757	80,451	18	5,566,629

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,037,128	997,128	23,625	1,020,753
当期変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）	6,431	6,431		6,431
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
株式給付信託による自己株式の処分				
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	6,431	6,431	-	6,431
当期末残高	1,043,559	1,003,559	23,625	1,027,184

	株主資本			
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
	繰越利益剰余金			
当期首残高	3,747,515	3,747,515	319,237	5,486,159
当期変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）				12,862
剰余金の配当	104,687	104,687		104,687
当期純利益	591,669	591,669		591,669
自己株式の取得			73,801	73,801
株式給付信託による自己株式の処分			33,324	33,324
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	486,981	486,981	40,477	459,366
当期末残高	4,234,497	4,234,497	359,715	5,945,525

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
当期首残高	14,694	65,757	80,451	18	5,566,629
当期変動額					
新株の発行（新株予約 権の行使）					12,862
剰余金の配当					104,687
当期純利益					591,669
自己株式の取得					73,801
株式給付信託による 自己株式の処分					33,324
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	562	66,571	67,134	18	67,152
当期変動額合計	562	66,571	67,134	18	392,213
当期末残高	14,131	814	13,317	-	5,958,842

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	680,326	938,088
減価償却費	153,357	206,005
賞与引当金の増減額（ は減少）	20,002	40,000
製品保証引当金の増減額（ は減少）	406	-
株式給付引当金の増減額（ は減少）	24,000	24,000
受取利息及び受取配当金	28	1,175
投資事業組合運用損益（ は益）	989	1,634
受取補償金	7,074	7,330
為替差損益（ は益）	1	0
投資有価証券評価損	110,003	-
売上債権の増減額（ は増加）	75,759	277,092
棚卸資産の増減額（ は増加）	290,914	202,051
仕入債務の増減額（ は減少）	26,033	131,287
固定資産売却損益（ は益）	76	-
未払金の増減額（ は減少）	163,957	29,310
その他	239,371	210,049
小計	336,574	1,092,724
利息及び配当金の受取額	4,534	4,150
補償金の受取額	7,878	7,808
法人税等の支払額	92,991	389,109
法人税等の還付額	8,008	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	264,004	715,573
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	74,620	298,863
有形固定資産の売却による収入	-	3,643
無形固定資産の取得による支出	83,297	14,958
投資有価証券の取得による支出	13,500	6,000
敷金及び保証金の差入による支出	18,536	154,806
敷金及び保証金の返還による収入	540	3,977
従業員に対する貸付けによる支出	668	360
従業員に対する貸付金の回収による収入	467	759
投資活動によるキャッシュ・フロー	189,615	466,607
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	141,704	73,801
配当金の支払額	106,308	104,894
新株予約権の行使による株式の発行による収入	13,152	12,843
財務活動によるキャッシュ・フロー	234,860	165,852
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	0
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	160,470	83,114
現金及び現金同等物の期首残高	2,000,052	1,839,582
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,839,582	1 1,922,697

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

なお、投資事業組合に対する出資については、組合の直近の決算書を基礎とし、当社持分相当額を投資事業組合運用損益として投資有価証券を加減する方法によっております。

(2) デリバティブ

時価法

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品

総平均法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法

ただし、建物（附属設備を除く）及び2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～22年
車両運搬具	2～6年
工具、器具及び備品	3～20年

(2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

また、商標権については、10年で償却しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 製品保証引当金

当社が販売する商品の保証に伴い、発生が見込まれる費用又は損失に備えて、当事業年度末における見積額を計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 株式給付引当金

「株式給付規程」に基づく従業員の当社株式の給付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準29号 2020年3月31日公表分。）等を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

(1) OMO型D2Cビジネス

当社は主にインターネット上で商品の販売を行っており、顧客に対して商品を引き渡す履行義務を負っております。約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で履行義務が充足され、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時から当該商品等の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

商品の販売時に付与したポイントについては当該時点で履行義務を識別し、将来の使用見込み等を考慮して算定された独立販売価格を基礎として取引価格の配分を行っております。識別した履行義務については貸借対照表上「契約負債」に計上し、ポイントの利用及び失効に従い収益を認識しております。なお、他社が運営するポイントプログラムに参加しております。商品の購入に応じて付与される他社ポイントの一部については第三者のために回収する金額として、取引価格から付与ポイント相当額を控除し収益を認識しております。

(2) プラットフォームビジネス

当社はインターネット上で出店者と顧客との間での個々の取引の成立に関するサービスの提供を行う義務を負っております。

流通総額（出店者の月間売上高）にプラン別に定められている料率を乗じた金額にて、履行義務の充足時点である取引の成立時に収益を認識しております。

商品の販売時に付与したポイントについては当該時点で履行義務を識別し、将来の使用見込み等を考慮して算定された独立販売価格を基礎として取引価格の配分を行っております。識別した履行義務については貸借対照表上「契約負債」に計上し、ポイントの利用及び失効に従い収益を認識しております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約

ヘッジ対象...外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

為替予約は、輸入仕入等に係る為替変動リスクをヘッジする目的で外貨建予定取引の決済に必要な範囲内で行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象とヘッジ手段の重要な条件が同一であることから、為替相場の変動によるキャッシュ・フローの変動を完全に相殺するものと想定されるため、有効性の評価は省略しております。

6. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

7. その他財務諸表作成のための基礎となる重要な事項

(1) 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(重要な会計上の見積り)

1. 棚卸資産の評価

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
商品	2,110,508千円	2,312,560千円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当事業年度の財務諸表に計上した金額の算出方法及び算出に用いた主要な仮定

商品の貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。

収益性の低下を見込むにあたっては、回転期間が長期の商品について、回転期間や廃棄方針に応じた販売可能性を考慮した正味売却価額を算出し、貸借対照表価額を決定しております。

翌事業年度の財務諸表に与える影響

受注はライフスタイルの変化や消費者ニーズの変化等の様々な要因に左右されます。

そのため受注量が需要予測に達せず、商品の回転期間が長期化した場合には、翌事業年度の財務諸表に棚卸資産評価損が計上される可能性があります。

(未適用の会計基準等)

(リースに関する会計基準等)

・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日)

・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日)

ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

(1) 概要

国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取扱いを定めるもの。

(2) 適用予定日

2028年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「物品売却益」及び「受取手数料」は、営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「物品売却益」7,757千円、「受取手数料」1,595千円、「その他」3,072千円は、「その他」12,425千円として組み替えております。

(追加情報)

株式給付信託（J-ESOP）

当社は、2017年11月30日開催の取締役会決議において、当社の株価や業績と従業員の処遇の連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託（J-ESOP）」を導入しております。

(1) 本制度の概要

本制度は、あらかじめ当社が定めた「株式給付規程」に基づき、一定の要件を満たした当社の従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社は、従業員に対し個人の貢献度等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。従業員に対し給付する株式については、あらかじめ信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

(2) 信託に残存する自己株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前事業年度177,181千円、132,750株、当事業年度143,857千円、109,750株であります。

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

- 1 顧客との契約から生じた契約資産、契約負債及び返品負債の金額は、財務諸表「注記事項（収益認識関係）3.（1）顧客との契約から生じた債権、契約負債及び返品負債の残高等」に記載しております。

2 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
減価償却累計額	351,712千円	420,192千円

(損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、財務諸表「注記事項（収益認識関係）1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 棚卸資産の帳簿価額の切下げ

期末棚卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
商品評価損	1,780千円	4,122千円

3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
販売手数料	481,160千円	445,092千円
荷造配送費	1,980,333 "	1,837,016 "
給与及び手当	1,016,029 "	1,051,864 "
賞与引当金繰入額	97,054 "	138,184 "
株式報酬費用	29,322 "	23,081 "
株式給付引当金繰入額	24,000 "	24,000 "
広告宣伝費	581,403 "	349,583 "
保管費	490,562 "	505,202 "
減価償却費	153,357 "	206,005 "
おおよその割合		
販売費に属する費用	79.3 %	75.2 %
一般管理費に属する費用	20.7 %	24.8 %

4 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
研究開発費	24,491千円	56,210千円

5 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
車両運搬具	76千円	千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度 期首株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	10,644,200	24,800	-	10,669,000
合計	10,644,200	24,800	-	10,669,000

(変動事由の概要)

普通株式の増加事由は以下のとおりであります。

ストック・オプション行使による新株発行による増加 24,800株

2. 自己株式に関する事項

	当事業年度 期首株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	146,674	200,000	13,700	332,974

(注) 当事業年度末の自己株式のうち、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する株式数は、132,750株であります。

(変動事由の概要)

普通株式の増加事由は以下のとおりであります。

2023年6月14日及び2024年2月14日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加 200,000株

普通株式の減少事由は以下のとおりであります。

「株式給付信託(J-ESOP)」に基づく従業員への給付による減少 13,700株

3. 新株予約権等に関する事項

新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業 年度末残高 (千円)
		当事業 年度期首	当事業 年度増加	当事業 年度減少	当事業 年度末	
2013年第4回ストックオプションとしての 新株予約権						
2014年第5回ストックオプションとしての 新株予約権						
2015年第6-1回ストックオプションとしての 新株予約権						
2016年第7回ストックオプションとしての 新株予約権						
2016年第8回ストックオプションとしての 新株予約権						18
合計						18

４． 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	106,439	10.00	2023年3月31日	2023年6月29日

(注) 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金1,464千円が含まれております。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	104,687	10.00	2024年3月31日	2024年6月27日

(注) 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金1,327千円が含まれております。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

１． 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度 期首株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	10,669,000	23,600	-	10,692,600
合計	10,669,000	23,600	-	10,692,600

(変動事由の概要)

普通株式の増加事由は以下のとおりであります。

ストック・オプション行使による新株発行による増加 23,600株

２． 自己株式に関する事項

	当事業年度 期首株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	332,974	100,046	23,000	410,020

(注) 当事業年度末の自己株式のうち、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する株式数は、109,750株であります。

(変動事由の概要)

普通株式の増加事由は以下のとおりであります。

2025年1月31日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加 100,000株

単元未満株式の買取りによる増加 46株

普通株式の減少事由は以下のとおりであります。

「株式給付信託(J-ESOP)」に基づく従業員への給付による減少 23,000株

３．新株予約権等に関する事項

新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業 年度末残高 (千円)
		当事業 年度期首	当事業 年度増加	当事業 年度減少	当事業 年度末	
2015年第6-1回ストックオプションとしての 新株予約権						
2016年第7回ストックオプションとしての 新株予約権						
2016年第8回ストックオプションとしての 新株予約権						
合計						

４．配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	104,687	10.00	2024年3月31日	2024年6月27日

(注) 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金1,327千円が含まれております。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	114,315	11.00	2025年3月31日	2025年6月27日

(注) 配当金の総額には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金1,207千円が含まれております。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

１ 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
現金及び預金	1,750,184千円	1,835,809千円
預け金(流動資産その他)(注)	89,398 "	86,888 "
現金及び現金同等物	1,839,582千円	1,922,697千円

(注) 預け金は当社提供サービスの対価回収における、決済サービス会社に対しての一時的な預け入れであり、随時引き出し可能であり、かつ、価値の変動リスクはないことから現金及び現金同等物に含めております。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
1年内	198,757千円	548,023千円
1年超	48,153 "	1,011,757 "
合計	246,910千円	1,559,781千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、事業計画に照らして、必要な運転資金を主に自己資金で賄っており、必要に応じて銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金については、信用リスクに晒されております。当該リスクについては、当社の「経理規程」に従い、取引先ごとに残高管理を行っております。

営業債務である買掛金は、その全てが1年以内の支払期日であります。未払金は、主に人件費及び経費関係のもので3か月以内に支払期日が到来するものであります。

デリバティブ取引は、輸入取引に係る為替変動のリスクに備えるため為替予約取引を利用しており、市場価格の変動リスクに晒されております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、「重要な会計方針」に記載のとおりであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権について、取引相手毎に入金期日管理表を作成し、残高管理を行っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

経営管理本部において定期的にキャッシュ・フロー計画、実績を作成し、毎月の取締役会にて資金の状況を報告しております。

市場リスク（為替変動リスク）の管理

デリバティブ取引は、主に外貨建仕入取引に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした為替予約取引のみであり、「為替リスク管理規程」に従い、担当部門が決裁者の承認を得て実行しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません（（注2）を参照ください）。

また、「現金及び預金」、「売掛金」、「買掛金」、「未払金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

前事業年度(2024年3月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
デリバティブ取引	94,614	94,614	-

当事業年度(2025年3月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
デリバティブ取引	(1,172)	(1,172)	-

（注1）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

（注2）市場価格のない株式等は、「2.金融商品の時価等に関する事項」の表中には含めておりません。

当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
非上場株式及び投資事業組合出資金	91,703千円	93,663千円

貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体の時価については、記載を省略しております。

（注3）金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(2024年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,750,184			
売掛金	1,739,849			
合計	3,490,034			

当事業年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,835,809			
売掛金	2,016,942			
合計	3,852,751			

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって貸借対照表に計上する金融資産及び金融負債

前事業年度(2024年3月31日)

(単位：千円)

	時 価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
デリバティブ取引 通貨関連	-	94,614	-	94,614

当事業年度(2025年3月31日)

(単位：千円)

	時 価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
デリバティブ取引 通貨関連	-	(1,172)	-	(1,172)

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

デリバティブ取引

為替予約の時価は、為替レート等の観察可能なインプットを用いて算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. 投資有価証券

前事業年度(2024年3月31日)

投資有価証券は、市場価格のない株式等であることから、記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の投資有価証券の貸借対照表計上額は次のとおりです。

	前事業年度
投資有価証券	91,703千円

当事業年度(2025年3月31日)

投資有価証券は、市場価格のない株式等であることから、記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の投資有価証券の貸借対照表計上額は次のとおりです。

	当事業年度
投資有価証券	93,663千円

2. 減損処理を行った有価証券

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

当事業年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損110,003千円を計上しております。

なお、市場価格のない株式等の減損処理にあたっては、発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく下落していると判断したものについて減損処理を行っております。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

１．ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前事業年度(2024年 3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	外貨建予定取引	1,480,687		94,614
合計			1,480,687		94,614

当事業年度(2025年 3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	外貨建予定取引	3,118,139		1,172
合計			3,118,139		1,172

(ストック・オプション等関係)

１．ストック・オプションにかかる費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

２．ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	2015年 7月30日	2016年 3月23日
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役 2名 当社の監査等委員である取締役 1名 当社の従業員 26名 当社の社外協力者 1名	当社の取締役 3名 当社の従業員 26名
株式の種類別のストック・オプションの数 (注) 1	普通株式 20,800株	普通株式 42,400株
付与日	2015年 7月31日	2016年 4月 1日
権利確定条件	(注) 2	(注) 2
対象勤務期間	2015年 8月 1日～2017年 7月31日	2016年 4月 2日～2018年 4月 1日
権利行使期間	2017年 8月 1日～2025年 6月30日	2018年 4月 2日～2026年 2月28日

会社名	提出会社
決議年月日	2016年12月 6日
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役 3名 当社の従業員 48名
株式の種類別のストック・オプションの数 (注) 1	普通株式 - 株
付与日	2016年12月27日
権利確定条件	(注) 2 , 3
対象勤務期間	2016年12月28日～2018年 6月30日
権利行使期間	2018年 7月 1日～2024年 6月30日

(注) １．株式数に換算して記載しております。

２．「第４ 提出会社の状況 １株式等の状況 (2)新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

３．「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号 2018年 1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度(2025年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	2015年7月30日	2016年3月23日	2016年12月6日
権利確定前			
前事業年度末(株)			
付与(株)			
失効(株)			
権利確定(株)			
未確定残(株)			
権利確定後			
前事業年度末(株)	44,400	42,400	36,400
権利確定(株)			
権利行使(株)	23,600		
失効(株)			36,400
未行使残(株)	20,800	42,400	

単価情報

会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	2015年7月30日	2016年3月23日	2016年12月6日
権利行使価格(円)	545	800	1,488
行使時平均株価(円)	795		
付与日における公正な評価単価(円)			1

3. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

4. ストック・オプションの本源的価値により算定を行う場合の当事業年度における本源的価値の合計額及び権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

当事業年度末における本源的価値の合計額 5,872千円

当事業年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額
5,896千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
繰延税金資産		
減価償却超過額	100,296千円	118,767千円
敷金償却否認額	18,344 "	21,515 "
賞与引当金	30,839 "	43,039 "
投資有価証券評価損	86,323 "	88,870 "
株式報酬費用	6,708 "	4,805 "
未払事業税	15,245 "	17,567 "
資産除去債務	"	21,156 "
その他	70,114 "	119,908 "
繰延税金資産小計	327,871千円	435,630千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額 (注)	105,643 "	132,547 "
評価性引当額小計	105,643千円	132,547千円
繰延税金資産合計	222,227千円	303,083千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	6,448千円	6,201千円
資産除去債務に対応する除去費用	"	20,977 "
繰延ヘッジ損益	28,857 "	"
繰延税金負債合計	35,306千円	27,179千円
繰延税金資産の純額	186,921千円	275,903千円

(注) 評価性引当額が26,903千円増加しております。この増加の主な内容は、資産除去債務に係る評価性引当額を認識したことに伴うものであります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
法定実効税率	30.5 %	30.5 %
(調整)		
留保金課税	4.1 %	5.5 %
住民税均等割等	1.2 %	1.2 %
評価性引当額の増減	5.1 %	2.5 %
税額控除	%	3.4 %
その他	1.1 %	0.6 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	42.0 %	36.9 %

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立し、2026年4月1日以後開始する事業年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.5%から31.4%に変更し計算しております。

なお、この税率変更による影響は軽微であります。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

実店舗の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。なお、一部の賃貸借契約に係る原状回復義務については、資産除去債務の負債計上に代えて、資産計上された敷金のうち回収が見込めない金額を合理的に見積み、そのうち当事業年度に帰属する金額を費用計上する方法によっております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から５～６年と見積り、割引率は0.4～0.7%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
期首残高		千円
有形固定資産の取得に伴う増加額		67,167 "
時の経過による調整額		210 "
期末残高		67,377千円

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社はEコマース事業の単一セグメントであり、主要な顧客との契約から生じる収益をサービス区分に分解した情報は、以下のとおりであります。

前事業年度（自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日）

（単位：千円）

サービス区分	報告セグメント
	Eコマース事業
OMO型D2C（ ）ビジネス	15,647,128
プラットフォームビジネス	416,313
顧客との契約から生じる収益	16,063,441
その他の収益	
外部顧客への売上高	16,063,441

OMO（Online Merges with Offline）：オンラインとオフラインの融合

D2C（Direct to Consumer）：オンライン専業かつ直販の事業形態

当事業年度（自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日）

（単位：千円）

サービス区分	報告セグメント
	Eコマース事業
OMO型D2C（ ）ビジネス	15,588,913
プラットフォームビジネス	346,302
顧客との契約から生じる収益	15,935,215
その他の収益	
外部顧客への売上高	15,935,215

OMO（Online Merges with Offline）：オンラインとオフラインの融合

D2C（Direct to Consumer）：オンライン専業かつ直販の事業形態

2. 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「(重要な会計方針) 4. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報
前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(1) 顧客との契約から生じた債権、契約負債及び返品負債の残高等

(単位:千円)

	当事業年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	1,814,017	1,739,849
契約負債	73,859	80,240
返品負債	10,832	9,527

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社では、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって、当初の予想期間が1年以内の契約であるため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(1) 顧客との契約から生じた債権、契約負債及び返品負債の残高等

(単位:千円)

	当事業年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権	1,739,849	2,016,942
契約負債	80,240	56,013
返品負債	9,527	11,235

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社では、残存履行義務に配分した取引価格の注記にあたって、当初の予想期間が1年以内の契約であるため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、Eコマース事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦における有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

当社の主な販売先は不特定多数の一般消費者であり、販売実績の総販売実績に対する割合が100分の10以上の販売先はありませんので、記載を省略しております。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦における有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

当社の主な販売先は不特定多数の一般消費者であり、販売実績の総販売実績に対する割合が100分の10以上の販売先はありませんので、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
1 株当たり純資産額	538.56円	579.51円
1 株当たり当期純利益	37.82円	57.23円
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益	37.79円	57.16円

(注) 1 . 前事業年度及び当事業年度の 1 株当たり純資産額、1 株当たり当期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益の算定上、「従業員株式給付信託 (J-ESOP) 」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行 (信託 E 口) が保有する当社株式を、期末の普通株式の数及び期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1 株当たり純資産額 前事業年度 132,750株、当事業年度 109,750株

1 株当たり当期純利益 前事業年度 138,215株、当事業年度 118,402株

2 . 1 株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
純資産の部の合計額(千円)	5,566,629	5,958,842
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	18	-
(うち新株予約権(千円))	(18)	(-)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	5,566,610	5,958,842
1 株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	10,336,026	10,282,580

3 . 1 株当たり当期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
1 株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	394,358	591,669
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	394,358	591,669
普通株式の期中平均株式数(株)	10,426,803	10,339,172
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益		
当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	8,244	11,701
(うち新株予約権(株))	8,244	11,701
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株式の概要	2016年 3 月23日取締役会決議 第 7 回新株予約権 (新株予約権の数 212個) 2016年12月 6 日取締役会決議 第 8 回新株予約権 (新株予約権の数 182個)	2016年 3 月23日取締役会決議 第 7 回新株予約権 (新株予約権の数 212個)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期末 残高	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額	当期 償却額	差引当期末 残高
有 形 固 定 資 産	建物	145,133	299,610	1,541	443,202	90,061	58,902	353,141
	車両運搬具	29,748	1,820	1,680	29,888	25,104	2,502	4,784
	工具、器具及び備品	410,740	33,120	37,717	406,143	305,026	38,093	101,116
	建設仮勘定	288	251,599	216,529	35,358			35,358
	計	585,911	586,150	257,468	914,593	420,192	99,499	494,401
無 形 固 定 資 産	ソフトウェア	1,082,788	22,068		1,104,857	923,480	102,130	181,376
	ソフトウェア仮勘定		9,355	9,334	20			20
	商標権	48,117			48,117	29,936	4,811	18,181
	その他	75			75			75
	計	1,130,982	31,423	9,334	1,153,071	953,416	106,942	199,654

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

(1) 建物の増加

直営店設備 291,101千円

(2) 工具器具備品の増加

社内設備及び備品 15,743千円

直営店設備及び備品 10,820千円

商品製造用金型 5,103千円

(3) ソフトウェア及びソフトウェア仮勘定の増加(ソフトウェア仮勘定からの振替を除く)

基幹システム改修 12,878千円

在庫管理システム改修 4,075千円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額 (目的使用)	当期減少額 (その他)	期末残高
貸倒引当金	3,200				3,200
製品保証引当金	6,337				6,337
賞与引当金	101,112	141,112	101,112		141,112
株式給付引当金	56,349	24,000	33,324		47,025

【資産除去債務明細表】

明細表に記載すべき事項が財務諸表等規則第8条の28に規定する注記事項として記載されているため、記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	2,029
預金	
普通預金	1,833,779
計	1,833,779
合計	1,835,809

売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
GMOペイメントゲートウェイ(株)	1,249,278
楽天グループ(株)	480,481
LINEヤフー(株)	115,165
(株)ネットプロテクションズ	54,386
アマゾンジャパン(同)	51,642
その他	65,988
合計	2,016,942

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円) (A)	当期発生高 (千円) (B)	当期回収高 (千円) (C)	当期末残高 (千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
1,739,849	15,936,923	15,659,830	2,016,942	88.6	43.0

商品及び製品

区分	金額(千円)
リビング・ダイニング家具	1,726,981
ベッド寝具	388,079
その他	197,499
合計	2,312,560

買掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
(株)東馬	54,470
HUIZHOU GUANCHENG INDUSTRIAL CORPORATION,LTD	33,982
(株)ガルト	29,336
SBSロジコム(株)	24,486
ユニバール(株)	17,023
その他	214,420
合計	373,720

未払金
相手先別内訳

相手先	金額(千円)
佐川急便(株)	129,271
給与及び手当	111,632
楽天グループ(株)	80,601
(株)スターネット	70,006
ヤマト運輸(株)	37,801
その他	393,813
合計	823,125

(3) 【その他】

当事業年度における半期情報等

	中間会計期間	当事業年度
売上高 (千円)	7,123,943	15,935,215
税引前中間(当期)純利益 (千円)	298,912	938,088
中間(当期)純利益 (千円)	191,148	591,669
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	18.48	57.23

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年 4 月 1 日から翌年 3 月31日まで		
定時株主総会	毎事業年度終了後 3 か月以内		
基準日	毎年 3 月31日		
剰余金の配当の基準日	毎年 9 月30日 毎年 3 月31日		
1 単元の株式数	100株		
単元未満株式の買取り			
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 5 号 三菱UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部		
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 5 号 三菱UFJ 信託銀行株式会社		
取次所			
買取手数料	無料		
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 https://www.vega-c.com/		
株主に対する特典	1 . 対象株主 毎年 3 月31日現在、現在の株主名簿に記載または記録された1単元(100株) 以上の株式を保有されている株主 2 . 優待内容		
	保有株式数	優待内容	贈呈時期
	100株以上	LOWYA 5,000円分割引クーポン	2025年 6 月頃発送

(注) 当社の単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

会社法第189条第 2 項各号に掲げる権利

取得請求権付株式の取得を請求する権利

募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第20期(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) 2024年6月27日福岡財務支局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2024年6月27日福岡財務支局長に提出。

(3) 半期報告書及び確認書

第21期中(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) 2024年11月14日福岡財務支局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書を2024年6月27日福岡財務支局長に提出。

(5) 自己株券買付状況報告書

2025年3月14日、2025年4月14日福岡財務支局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2025年 6 月26日

株式会社ベガコーポレーション
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

福岡事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	野澤 啓
--------------------	-------	------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高尾 圭輔
--------------------	-------	-------

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ベガコーポレーションの2024年4月1日から2025年3月31日までの第21期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ベガコーポレーションの2025年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

商品の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>2025年3月31日現在、商品を2,312,560千円（総資産の28.6％）計上しており、貸借対照表の重要な残高となっている。</p> <p>会社は、ソファ、ベッド、チェア、デスク、テレビ台、収納家具、ダイニング用品、日用家電等様々なジャンルの商品を取り扱っており、需要予測に基づいて発注を行っている。しかし、実際の受注はライフスタイルの変化や消費者ニーズの変化等の様々な要因に左右される。また、これらの商品の原材料価格や為替相場の変動により、仕入価格が変動する可能性がある。これらの要因により、受注量が需要予測に達しない場合は、会社に過剰在庫が発生し、棚卸資産評価損が発生する可能性がある。</p> <p>商品の評価において、【注記事項】の重要な会計方針に記載のとおり、商品の貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、期末における正味売却価額が取得原価を下回っている場合には、当該正味売却価額をもって貸借対照表価額としている。</p> <p>会社は、商品ランクごとに管理方針を定めた上で、在庫管理をしている。回転期間が長期の商品については、滞留状況や販売方針及び廃棄方針を考慮した正味売却価額を算出し、貸借対照表価額を決定している。</p> <p>正味売却価額の算定にあたっては、経営者の判断が必要であるため、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、商品の評価を検討するにあたり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売戦略及び発注方針、在庫保有方針、廃棄方針について、適切な役職者へのヒアリング及び関連資料を閲覧した。 ・商品評価に関連する内部統制の整備状況及び運用状況について検討を行った。 ・商品評価の計算において会社が使用する基礎データの妥当性、正確性、網羅性について評価を行った。 ・商品の回転期間分析・商品のカテゴリー別の在庫金額の推移分析を実施するとともに、回転期間別の在庫金額及び評価損の推移を分析し、異常がないかの検討を行った。 ・経営者が実施する見積りプロセスの有効性を検討するために、前年度の見積りの遡及的な検討を実施した。 ・会社の長期滞留商品の評価基準に基づいた正味売却価額の算出プロセスが適切か検討を行った。 ・正味売却価額の算定にあたって利用された直近の販売価額が適切か照合を行った。 ・廃棄予定の商品の評価が適切に行われているか検討を行った。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ベガコーポレーションの2025年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社ベガコーポレーションが2025年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

< 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。